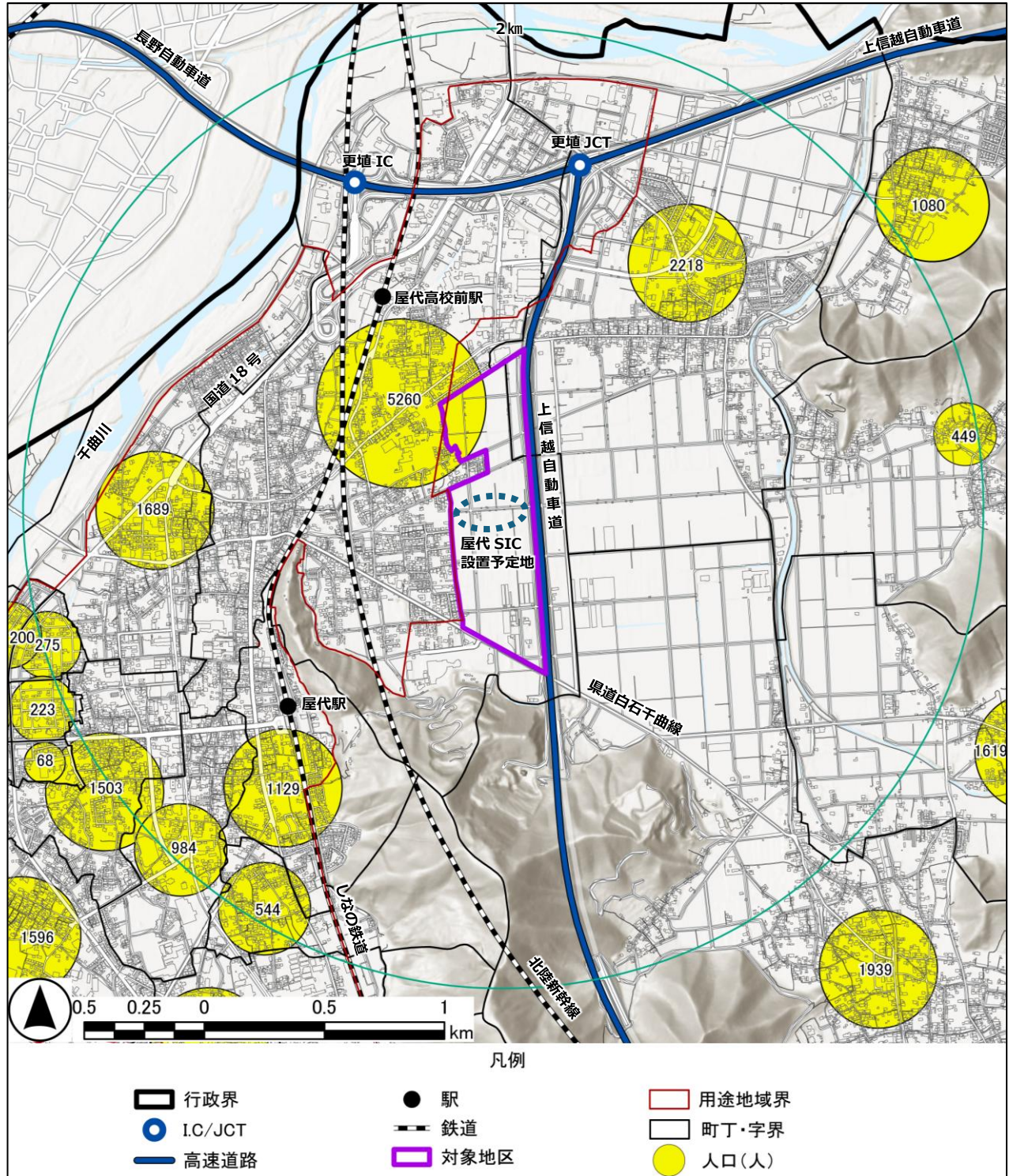


(7) 人口・世帯

① 人口分布

対象地区の西及び北西側（大字屋代）は5,260人の人口集積（千曲市の町丁・字別人口では最大）があるほか、北東側（大字雨宮）に2,218人、屋代駅以西に1,000人以上の町丁・字が分布しています。

■ 町丁・字別の人口分布（2020年）

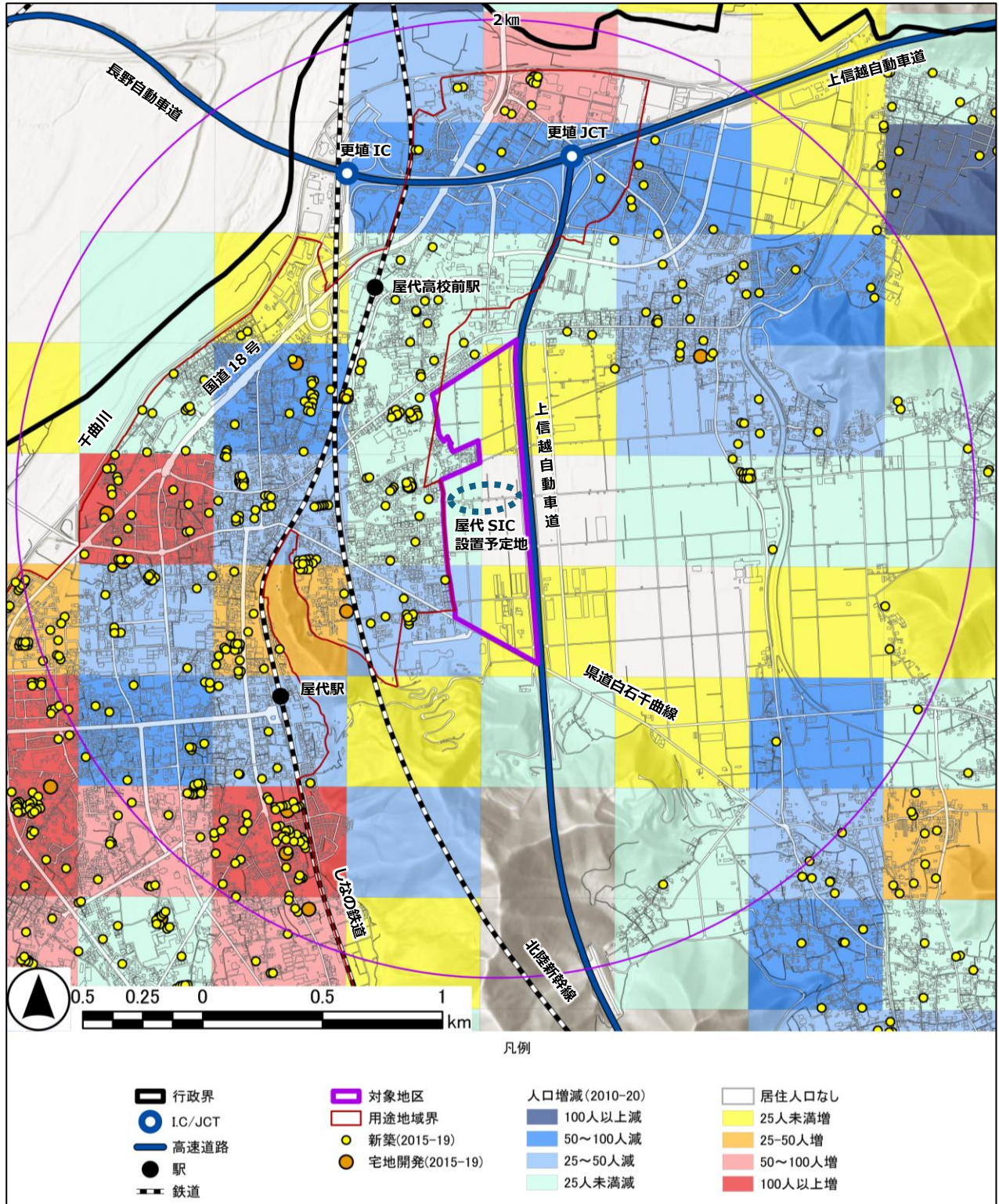


出典：総務省「国勢調査」を基に作成

②人口増減数

対象地区の西及び北西側や屋代駅周辺のメッシュは人口減少の傾向にある一方、千曲川沿いや国道18号沿いでは人口が増加傾向にあります。なお、対象地区の西及び北西側や屋代駅周辺においても新築や宅地開発が見られることから、住宅立地の需要はあることがわかります。一方、屋代駅周辺は、建物の密度が高く、住宅立地の余地が少ないため人口が減少していると考えられます。

■500mメッシュ単位の人口増減数(2010~2020年)

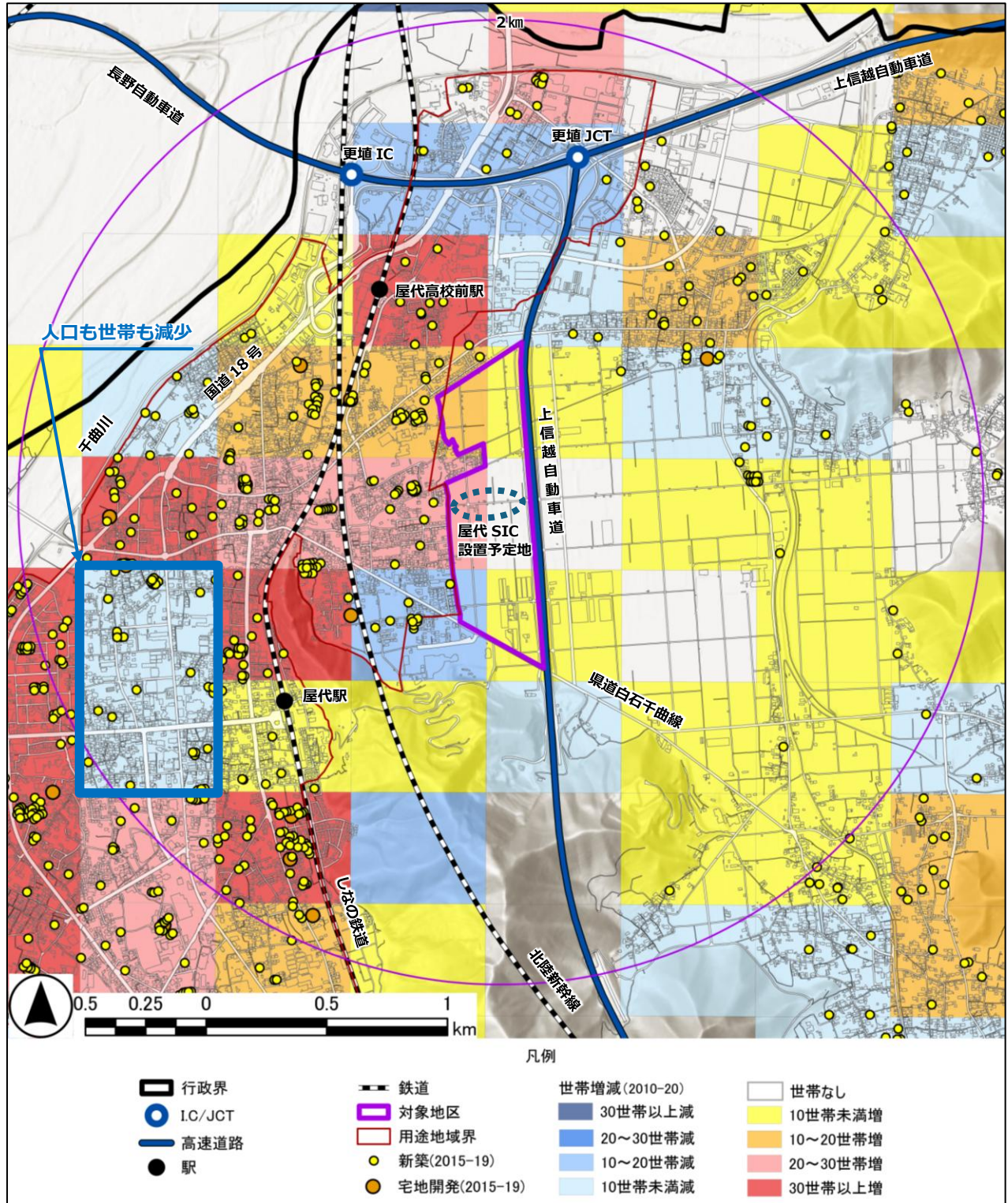


出典：総務省「国勢調査」を基に作成

③世帯増減数

用途地域内及びその周辺では、世帯数が増加を維持しているエリアが多いですが、人口も世帯も減少しているエリアがあり、空き家又は空き地が増加していると考えられます。一方、人口増加傾向にある千曲川沿い（杭瀬下や大字粟佐）や国道18号沿い（大字桜堂や大字打沢）では、住宅立地を背景として世帯増加が顕著です。

■500mメッシュ単位の世帯増減数(2010~2020年)

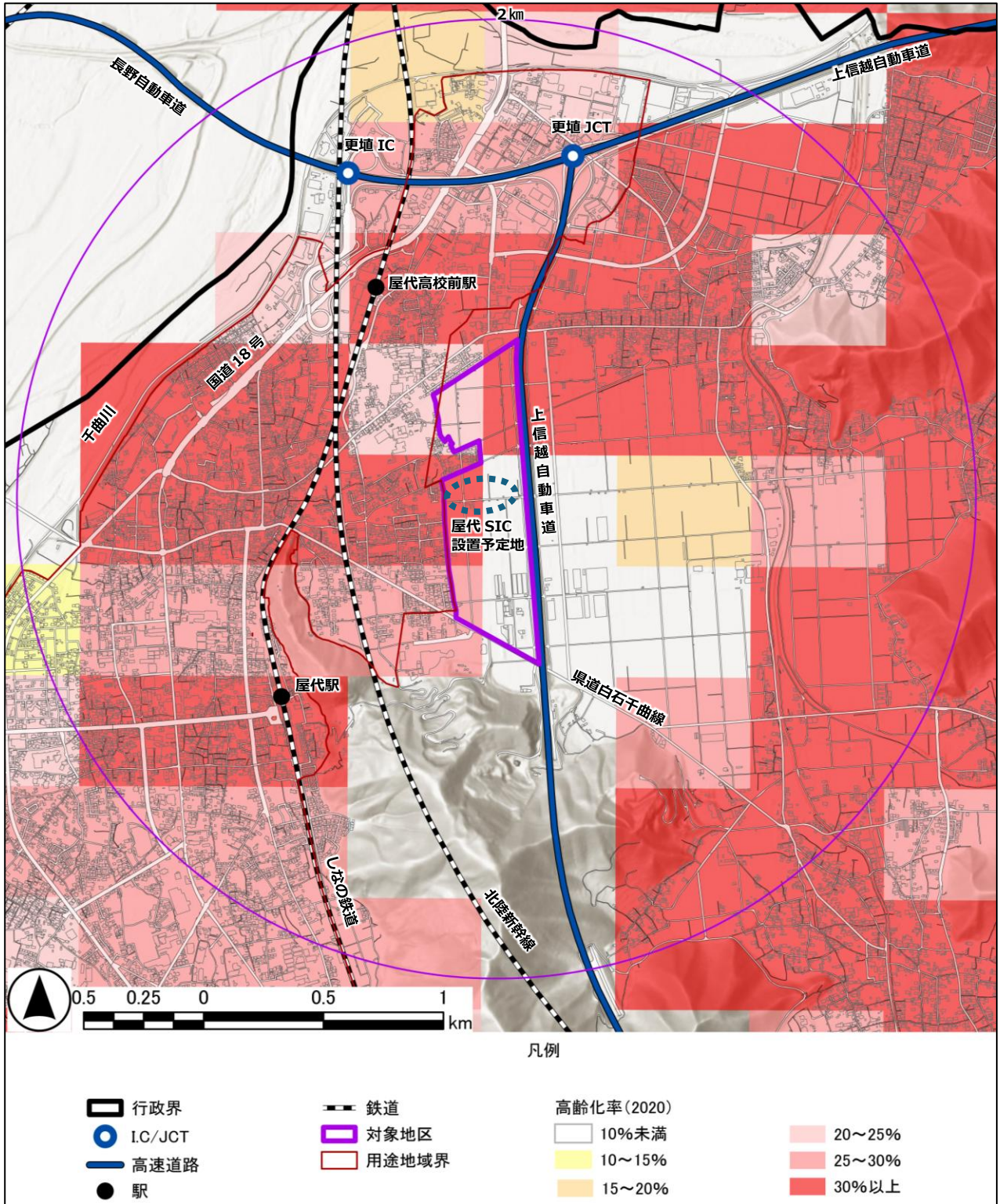


出典：総務省「国勢調査」を基に作成

④高齡化率

2020年の千曲市全体の高齡化率は33.4%であり、30%超の地域が中心ですが、対象地区の西及び北西側（大字屋代）は30%未満であり、人口・世帯が増加しているエリアは相対的に高齡化率が低い水準にあります。また、人口が増加している地域（杭瀬下）は高齡化率が15%未満であり、若い世代の中心のまちであると考えられます。

■500mメッシュ単位の高齡化率（2020年）

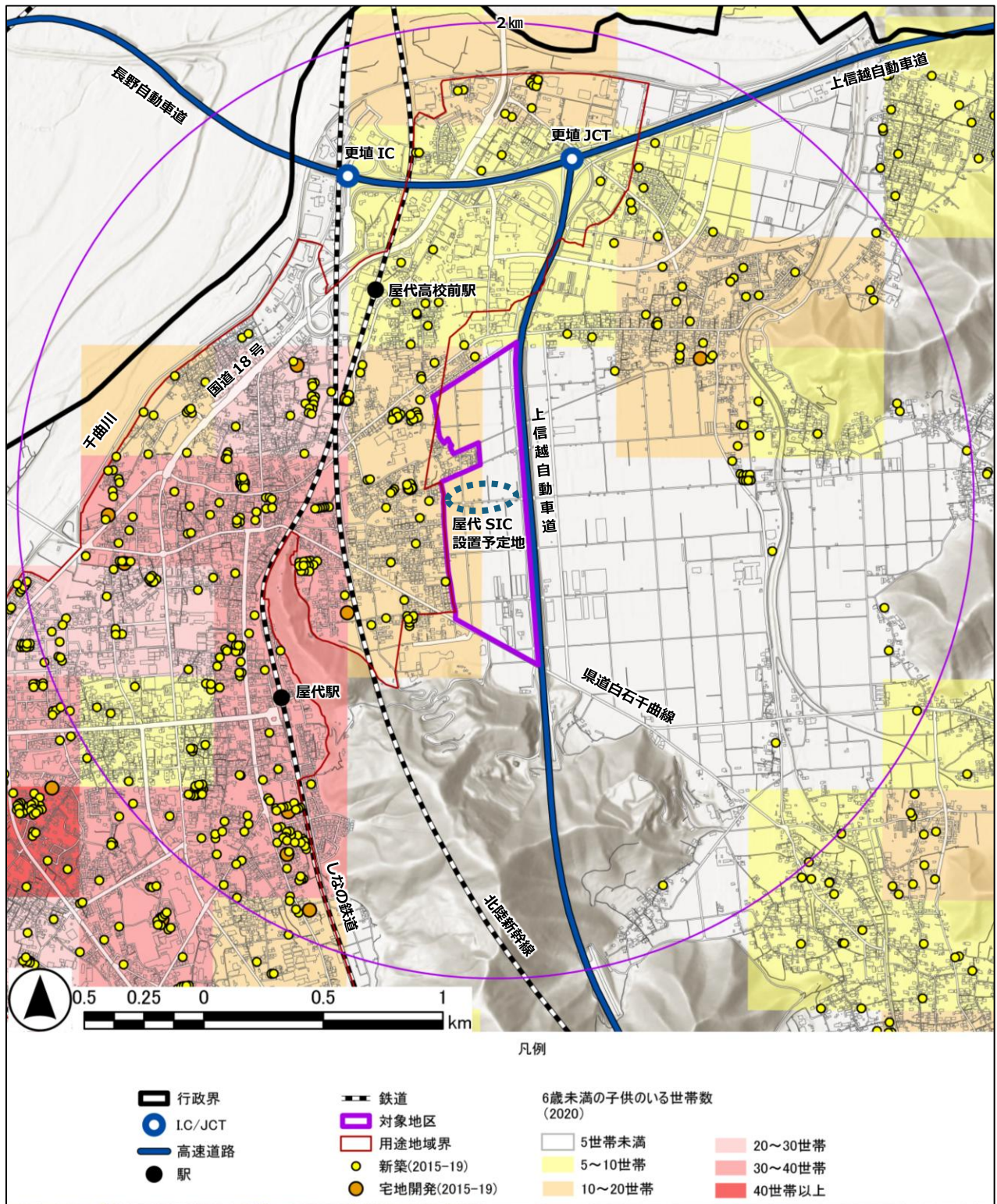


出典：総務省「国勢調査」を基に作成

⑤6歳未満の子供がいる世帯

6歳未満の子供がいる世帯は、宅地開発や新築が集積する屋代駅西側の市街地で密度が高く、特に杭瀬下付近が多くなっています。

■500mメッシュ単位の6歳未満の子供がいる世帯数(2020年)



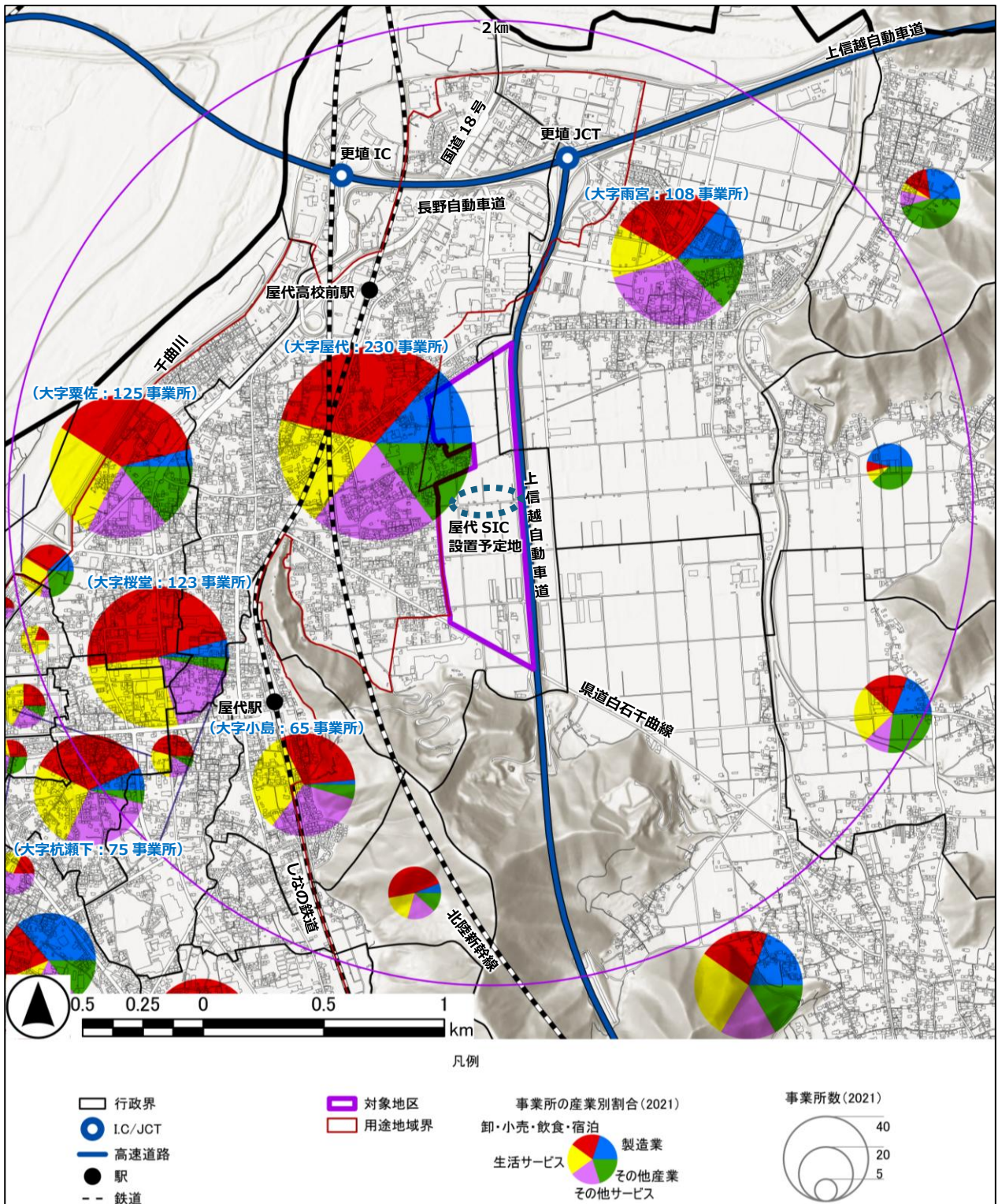
出典：総務省「国勢調査」を基に作成

(8) 事業所

① 産業別事業所数

屋代工業団地周辺（大字屋代、大字雨宮）や、屋代駅西側の市街地（大字桜堂、大字粟佐）に事業所数の集積があります。大字屋代、大字雨宮は、他の大字と比べて製造業の割合が相対的に高い傾向にあります。一方、屋代駅西側の市街地は大字桜堂などで商業の割合が約5割を占めています。

■ 産業別事業所数の分布（2021年）



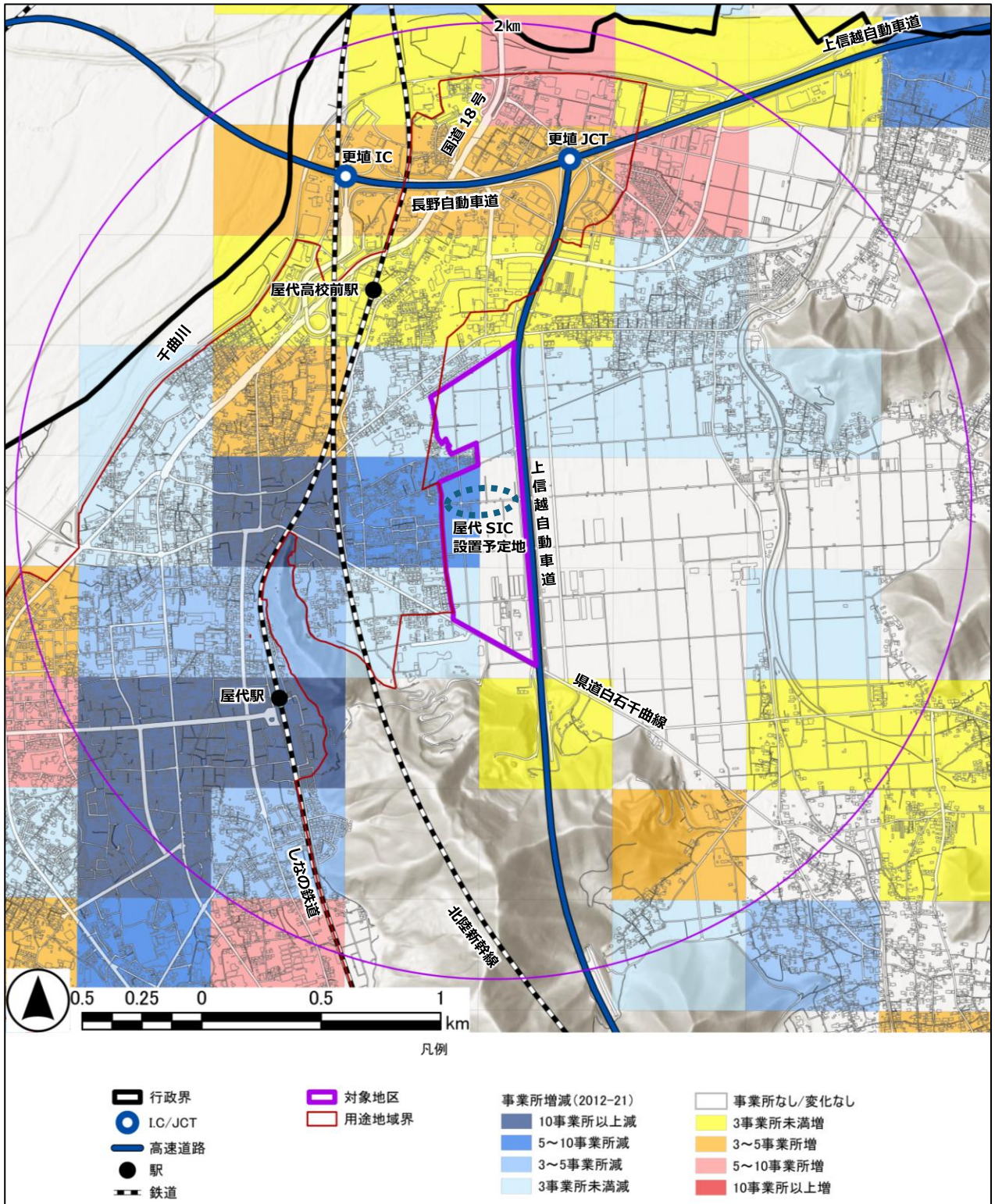
※生活サービス：「金融業、保険業」「生活関連サービス業、娯楽業」「教育、学習支援業」「医療、福祉」、その他サービス：「電気・ガス・熱供給・水道業」「情報通信業」「運輸業、郵便業」「不動産業、物品賃貸業」「学術研究、専門・技術サービス業」「複合サービス業」「サービス業（他に分類されないもの）」、その他産業：「農林漁業」「鉱業、採石業、砂利採取業」「建設業」

出典：総務省「経済センサス-活動調査」を基に作成

②事業所数の増減

屋代工業団地周辺（大字屋代、大字雨宮）では、事業所数が増加している一方、屋代駅西側の駅前商店街を含むエリアでは事業所の減少が顕著となっており、空き店舗が増えていると考えられます。

■500mメッシュ単位の事業所増減数(2012～2021年)



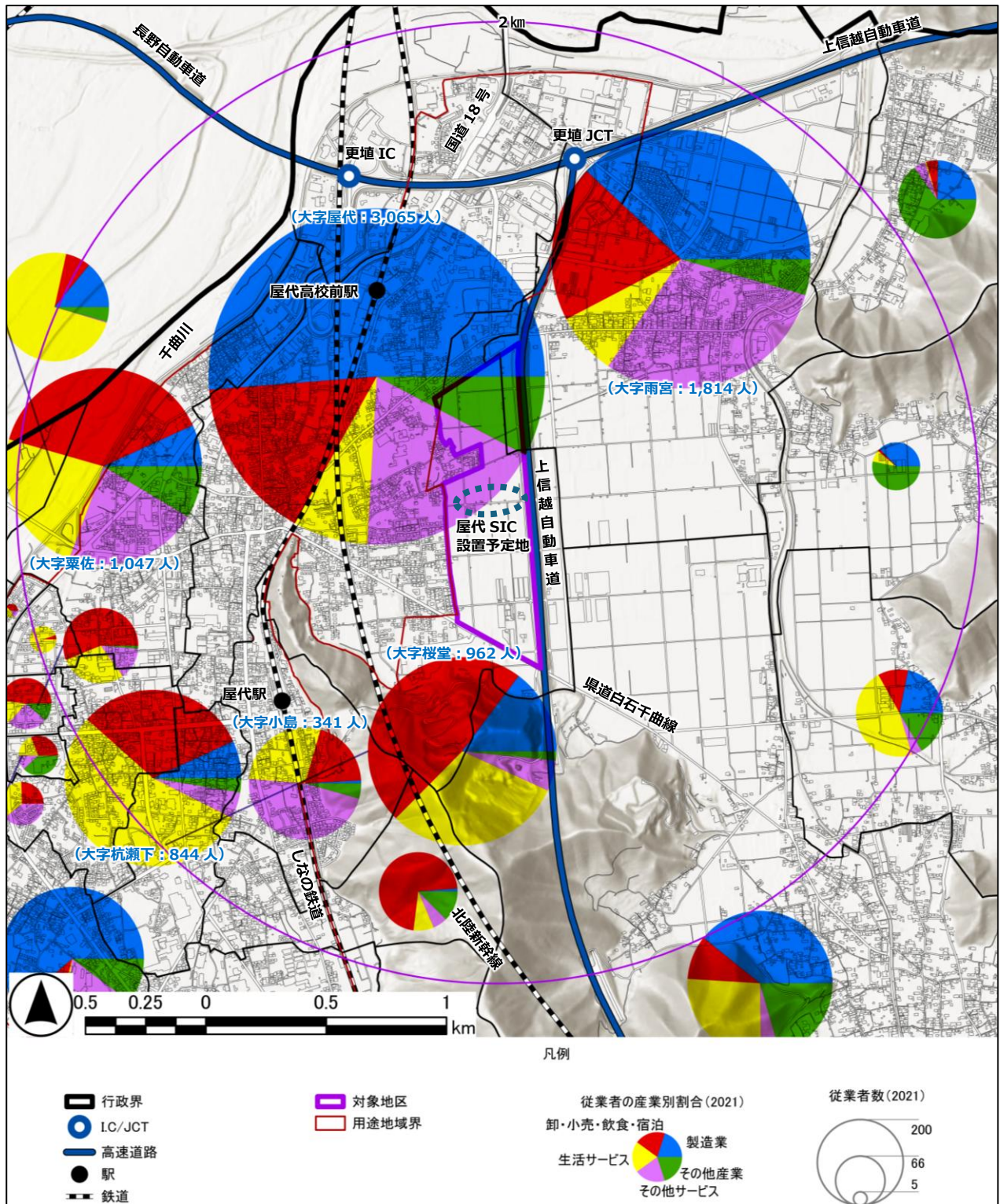
出典：総務省「経済センサス-活動調査」を基に作成

(9) 従業者

① 産業別従業者数

屋代工業団地周辺（大字屋代、大字雨宮）に従業者の集積があり、製造業については事業所数と比べて従業者の割合が高いことから、規模の大きな事業所が立地していると考えられます。また、人口の集積がある西側の市街地は、商業等の割合が高くなっています。

■ 産業別従業者数の分布（2021年）



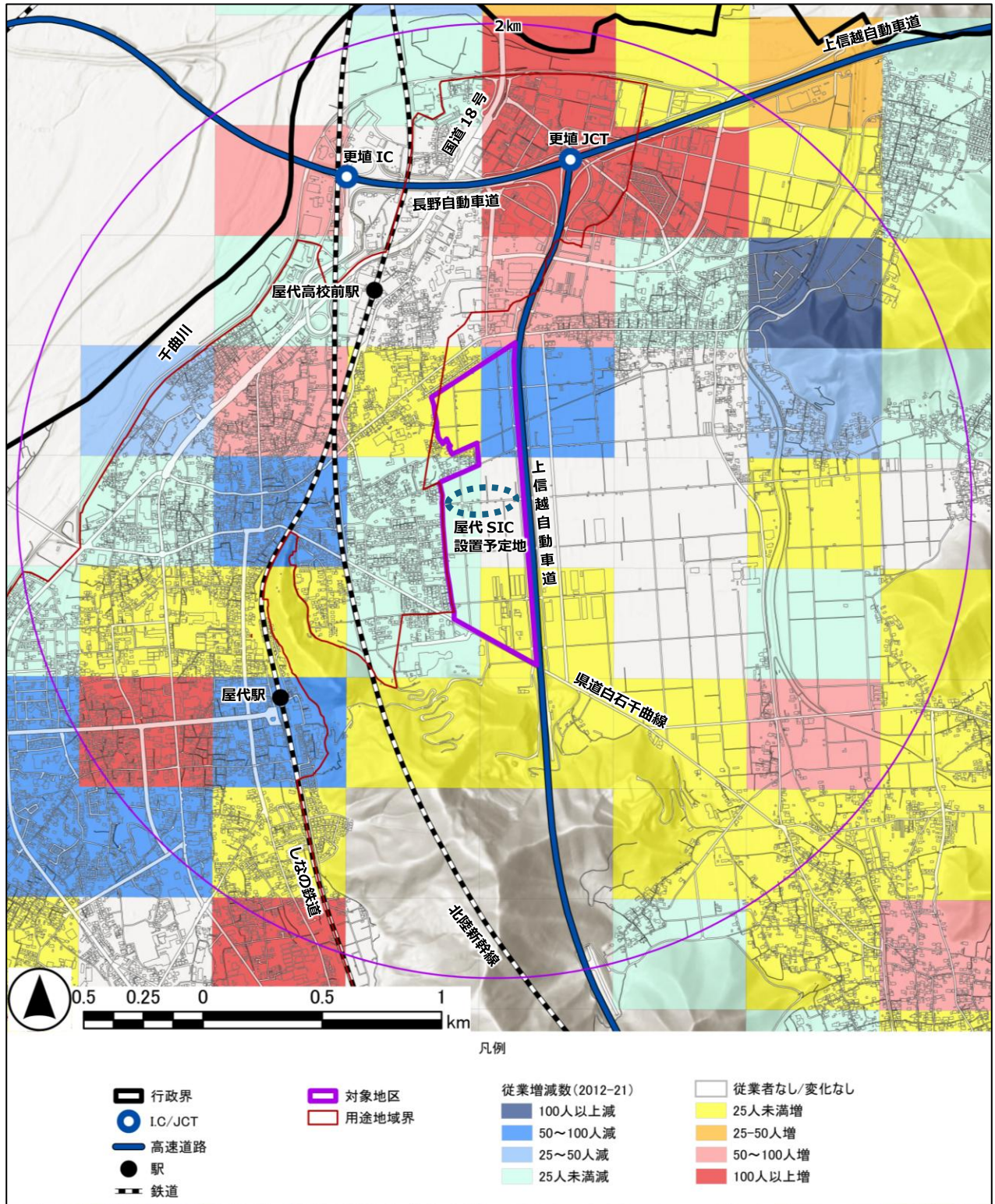
※生活サービス：「金融業、保険業」「生活関連サービス業、娯楽業」「教育、学習支援業」「医療、福祉」、その他サービス：「電気・ガス・熱供給・水道業」「情報通信業」「運輸業、郵便業」「不動産業、物品賃貸業」「学術研究、専門・技術サービス業」、「複合サービス業」「サービス業（他に分類されないもの）」、その他産業：「農林漁業」「鉱業、採石業、砂利採取業」「建設業」

出典：総務省「経済センサス-活動調査」を基に作成

② 従業者数の増減

屋代工業団地周辺（大字屋代、大字雨宮）や屋代駅の駅前通りにおいて、従業者数の増加が顕著となっています。

■ 500mメッシュ単位の従業者増減数（2012～2021年）



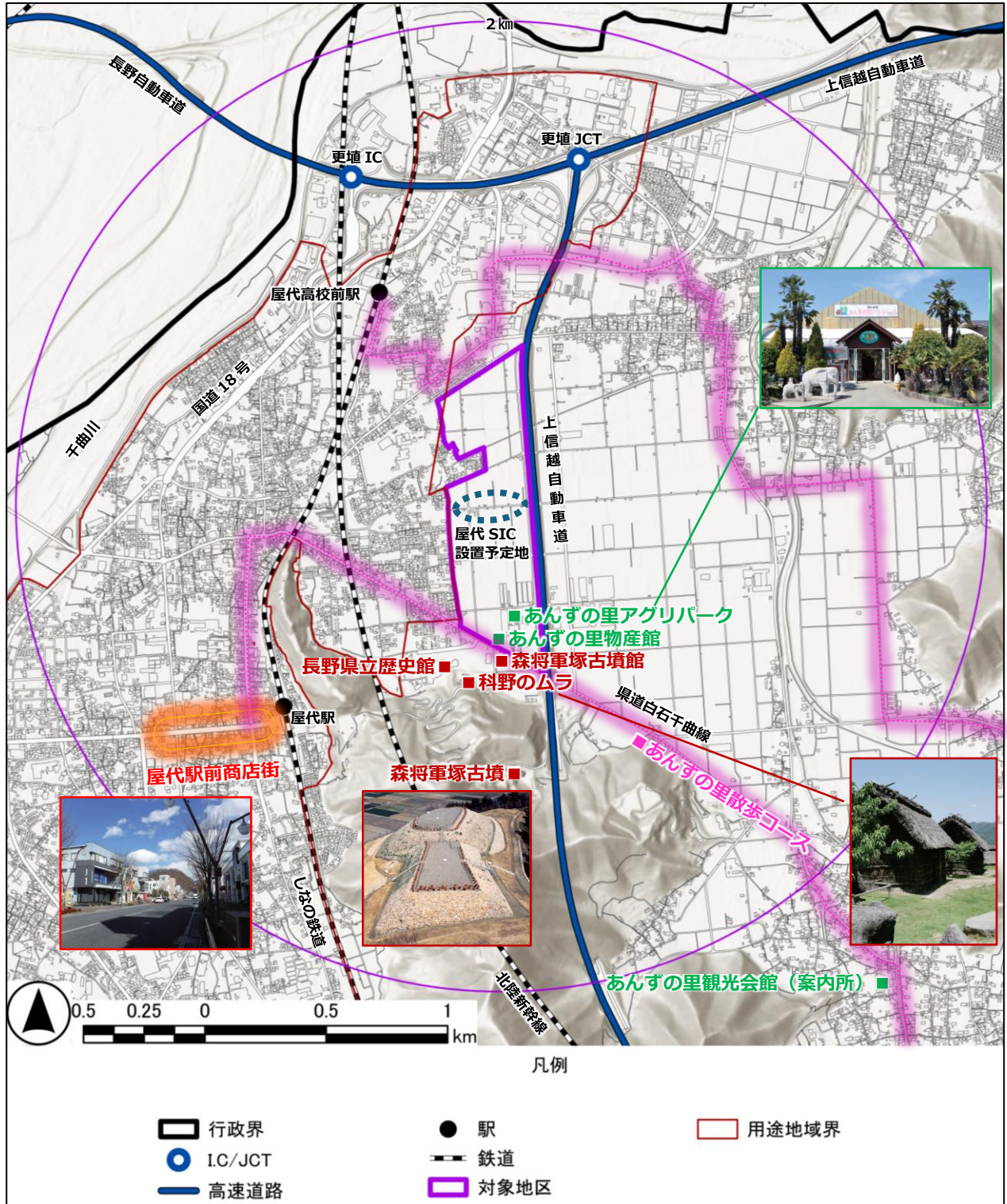
出典：総務省「経済センサス-活動調査」を基に作成

(10) 集客資源

① 集客資源の分布

対象地区には「あんずの里アグリパーク」や「あんずの里物産館」が立地しているほか、隣接して「森將軍塚古墳」、「科野のムラ」、「長野県立歴史館」が立地し、歴史観光ゾーンを形成しています。また、屋代駅前には商店街が形成され、電線の地中化や広い歩道が整備されています。

■ 観光・集客資源の分布



出典：信州千曲観光局のパンフレットを基に作成

②歩行者数

2024年（1月1日～12月31日）の期間における祝休日1日平均の歩行者数を見ると、森將軍塚古墳館前の道路、駅前商店街、船山通りが多くなっています。

■歩行者数（スマートフォンGPS位置情報ビッグデータから集計した推測値）



※調査に用いたデータは au(KDDI)スマートフォンの位置情報ビッグデータ。(auスマートフォンユーザーからの同意に基づき取得し、個人が特定できない形式に加工した位置情報および属性(性別・年齢層)情報データ)

・データには20歳未満及びインバウンド観光利用者のデータは含まれない

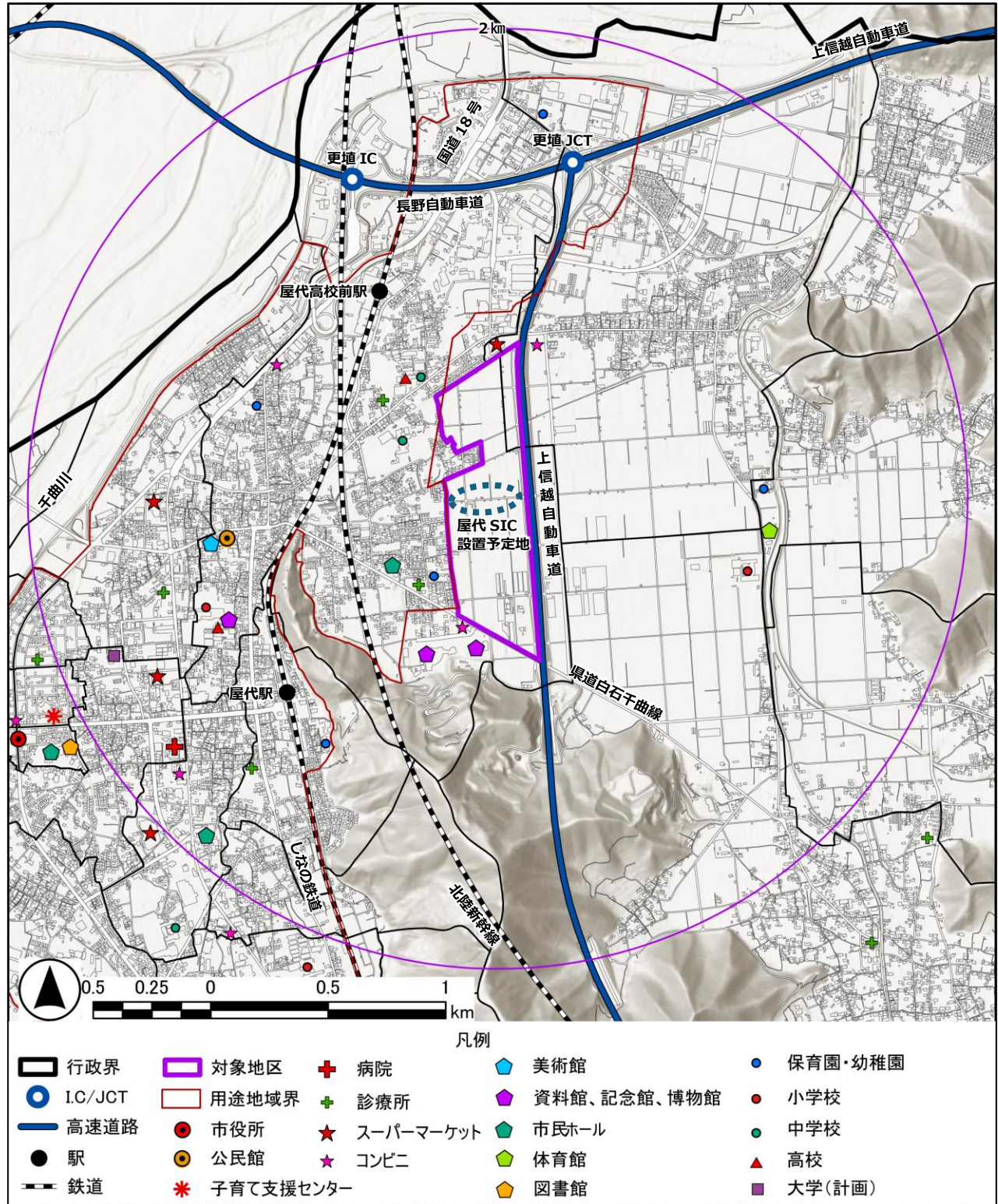
・分析結果の数値は全人口推計値(サンプルを、国勢調査の市区町村別・性年代別人口に基づいて拡大した値)

出典：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

(11) 施設分布

公共公益施設は、屋代駅西側の市街地に集積しており、対象地区周辺にもスーパー、コンビニエンスストア、診療所等の施設が分布しています。また、屋代高校、屋代南高校が対象地区の近隣に立地しているほか、令和9年4月には千曲市杭瀬下の市役所更埴庁舎跡地に清泉大学農学部（仮称）が開設予定であり、若年層の人口確保や市の活性化が期待されています。

■生活サービス・公共公益施設の分布

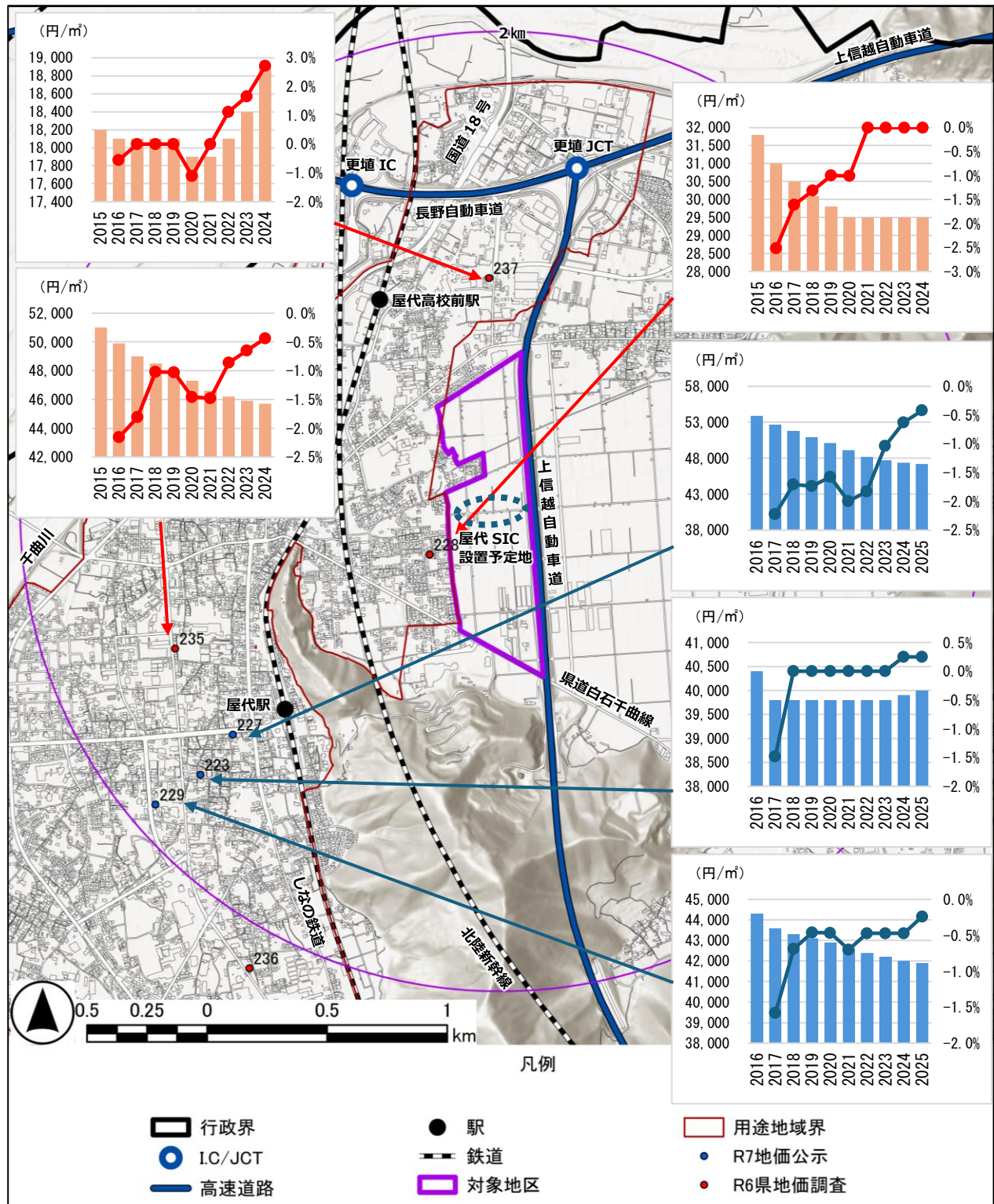


出典：千曲市立地適正化計画（令和7年3月31日改定）を基に作成

(12) 地価分布

屋代駅周辺の既成市街地では、過去10年間で地価の下落率が改善する方向にあり、最新値では4万円/m²以上の水準で落ちついています。一方、更埴IC周辺の地価が上昇傾向にあり、雨宮産業団地の整備等による影響が考えられます。また、対象地区の西側では、地価が近年は横ばい（3万円弱/m²）を維持しており、屋代SIC整備やまちづくりの検討の進捗が影響している可能性があります。

■地点別の地価の推移



出典：国土交通省「地価公示」及び長野県「地価調査」を基に作成

3 SIC周辺等のまちづくり事例

(1) まちづくり効果の事例

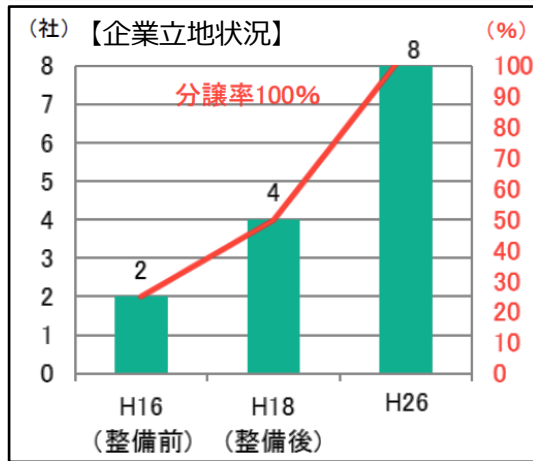
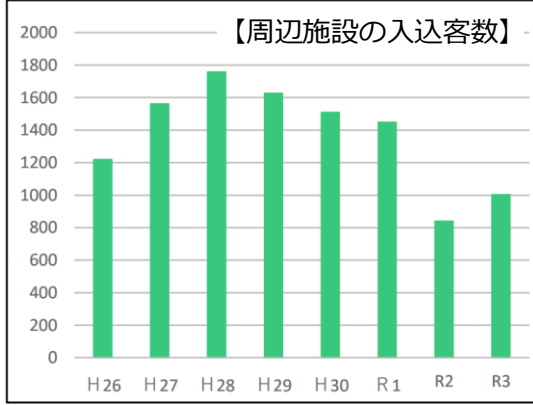
SICの整備と併せた周辺開発を行うことにより、観光交流の促進や製造業や物流、大規模商業施設等の企業立地が進展し、地域経済、雇用、税収等の効果が見られます。また、住宅地開発を行っている事例では人口定着や商業・医療等の生活関連施設の立地も見られます。

■ 事例の概要

地区名	概要
寒河江SIC周辺地区 (山形県寒河江市)	【観光交流の促進】SIC周辺で整備された観光関連施設の入込客数が増加 【企業立地の促進】民間開発エリアでの企業立地が増加し、分譲が完了
新潟東SIC周辺地区 (新潟県新潟市)	【人口増加】土地区画整理事業の進捗により、人口・世帯数が増加 【生活関連施設の立地促進】商業・医療等の生活関連施設が立地 【物流拠点の立地】SICの開通に合わせて物流拠点が立地
長岡北SIC周辺地区 (新潟県長岡市)	【企業の立地】SICに隣接する流通産業団地の企業立地が増加し、分譲が完了 (売上額：約250億円、雇用：約1,000人)
愛鷹SIC周辺地区 (静岡県沼津市)	【企業の立地】SIC整備後は民間開発の面積が開通前の約1.8倍に増加
遠州豊田SIC周辺地区 (静岡県磐田市)	【観光交流の促進】大規模商業施設の立地によりSIC利用者が増加 【商業の活性化】年間商品販売額が増加 【雇用の増加】地区内の雇用者数は30人から2,469人に増加
安八SIC周辺地区 (岐阜県安八町)	【企業の立地】SIC整備構想の公表以降、16社の新規企業が進出 【雇用の増加】約700人(うち町内雇用約100人)の新規雇用に創出
亀山PA地区 (三重県亀山市)	【企業の立地】工業団地の分譲の進捗とともに、製造業出荷額等が増加 【税収の増加】工業団地の造成と一体となったSIC整備により地方税収入額が増加

①寒河江SIC周辺地区（山形県寒河江市）

<p>概要</p>	<p>(経緯)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2004年4月：SIC社会実験候補箇所として国土交通省に登録 ・2004年8月：「寒河江SAスマートインターチェンジ社会実験準備会」設立 ・2004年9月：社会実験箇所に採択 ・2006年10月：恒久設置決定 <p>(立地した施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最上川ふるさと総合公園：センターハウス（展示、研修室）、スケートパーク、ドッグラン、イベント広場、芝生広場、歴史の丘、遊具、駐車場 ・民間開発エリア：温泉施設（寒河江花咲か温泉「ゆ〜チェリー」）
<p>位置図</p>	<p>民間開発エリア (日帰り温泉、宿泊施設、物産館など)</p> <p>最上川ふるさと総合公園 (屋外イベント広場、ドッグランなど)</p>
<p>効果</p>	<p>(観光交流の促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SIC周辺施設（最上川ふるさと総合公園、寒河江花咲か温泉ゆ〜チェリー、アグリランド産直センターなど）の入込客数が、2014年度から2016年度まで増加傾向 <p>(企業立地の促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SIC整備以後、隣接するチェリークアパーク（民間開発エリア）での企業立地が増加し、分譲が完了 <p>(救急医療への寄与)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来、救急患者は山形市中心部の医療施設まで搬送していたが、SIC整備によって、救急搬送が迅速化・安定化したうえ、24時間運用によって、夜間においてもSICを利用した救急搬送が可能となり、救急医療に寄与
<p>出典等</p>	<p>寒河江市HP「寒河江SAスマートインターチェンジ設置の経緯・整備効果」</p>



②新潟東SIC周辺地区（新潟県新潟市）

<p>概要</p>	<p>(経緯)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2011年3月：西野中野山地区の市街化区域編入、地区計画の決定 ・2011年11月：土地区画整理事業の組合設立、事業着手 ・2012年4月：日本海東北自動車道への連結許可 ・2014年11月：土地区画整理事業の事業完了 ・2016年3月：新潟東SIC開通 <p>(土地区画整理事業区域に立地した施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅：240区画 ・商業施設 ・医療施設 ・介護福祉施設 ・事務所 																											
<p>位置図</p>	 																											
<p>効果</p>	<p>(人口増加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟東SIC周辺地区では、土地区画整理事業の進捗により、人口・世帯数が増加 <p>(生活関連施設の立地促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地区画整理事業の区域では商業・医療等の生活関連施設が立地 <p>(物流拠点の立地)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内有数のスーパーマーケット運営企業がスマートICの開通に合わせて物流拠点を整備 <div data-bbox="379 1568 877 1971"> <p>東区中野山地区の人口の推移</p> <p>スマートIC沿線地域の人口及び世帯数が近年増加傾向</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>人口 (人)</th> <th>世帯数 (世帯)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H21</td><td>5,540</td><td>2,150</td></tr> <tr><td>H22</td><td>5,500</td><td>2,170</td></tr> <tr><td>H23</td><td>5,510</td><td>2,190</td></tr> <tr><td>H24</td><td>5,480</td><td>2,200</td></tr> <tr><td>H25</td><td>5,130</td><td>2,130</td></tr> <tr><td>H26</td><td>5,320</td><td>2,240</td></tr> <tr><td>H27</td><td>5,830</td><td>2,420</td></tr> <tr><td>H28</td><td>5,880</td><td>2,450</td></tr> </tbody> </table> <p>※住民基本台帳より集計（各年3月の数値）</p> </div> <div data-bbox="893 1568 1420 1926"> <p>地元スーパーマーケット物流拠点の整備</p> <p>県内有数のスーパーマーケット運営企業がスマートICの開通に合わせて、物流拠点を整備</p>  <p>村上や長岡方面の輸送に新潟東スマートICを利用</p> </div>	年次	人口 (人)	世帯数 (世帯)	H21	5,540	2,150	H22	5,500	2,170	H23	5,510	2,190	H24	5,480	2,200	H25	5,130	2,130	H26	5,320	2,240	H27	5,830	2,420	H28	5,880	2,450
年次	人口 (人)	世帯数 (世帯)																										
H21	5,540	2,150																										
H22	5,500	2,170																										
H23	5,510	2,190																										
H24	5,480	2,200																										
H25	5,130	2,130																										
H26	5,320	2,240																										
H27	5,830	2,420																										
H28	5,880	2,450																										
<p>出典等</p>	<p>新潟市「日本海東北自動車道『新潟東スマートIC』開通1年後の整備効果について（2017年）」</p>																											

③長岡北SIC周辺地区（新潟県長岡市）

<p>概要</p>	<p>(経緯)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016年度：長岡北SIC周辺開発候補地決定 ・2017年3月：長岡北SIC開通 ・2018年度：長岡北スマート流通産業団地造成工事着手 ・2020年度：順次分譲開始 ・2022年度：全区画完売 <p>(流通産業団地概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業主体：長岡地域土地開発公社 ・面積：開発面積約36ha、分譲面積約26ha
<p>位置図</p>	
<p>交通対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡北SICと国道8号を結ぶ新たなアクセス道路の整備（2018年） ・周辺道路整備（SICからの1次アクセス道路）として左岸バイパス北部延伸事業を実施中
<p>効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分譲開始から2年で完売（33区画・21社） ・2020年10月には、進出企業から成る「長岡北スマート流通産業団地協議会」が設立され、共通したインターンシップメニューの採用や合同企業見学会、新人研修等を実施し、地域経済の活性化や定住人口の増加を目指している。 <p>【経済効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備投資額：約213億円（建物・設備：約170億円、用地：約43億円） ・売上額：約250億円 ・雇用人数：約1,000人（うち新規雇用人数：350人）
<p>出典</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡北スマートIC地区協議会「長岡北スマートICの利用状況と整備効果」（平成30年6月29日） ・長岡市プレスリリース（令和5年3月28日）

④愛鷹SIC周辺地区（静岡県沼津市）

<p>概要</p>	<p>(経緯)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2011年度：愛鷹SIC地区協議会設立 ・2012年度：国土交通省から沼津市長に対し連結を許可 ・2016年度：愛鷹SIC開通 <p>(立地した施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所等の企業立地 																
<p>位置図</p>																	
<p>効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・愛鷹SIC開通前の周辺の開発立地件数は46件（H22年～H28年10月） ・H28年の愛鷹SIC周辺における開発面積は、民間投資の誘発により開通前のH27年に比べ約1.8倍に増加 <p>■ 愛鷹スマートIC周辺（愛鷹、片浜、金岡）の開発面積の推移</p> <table border="1"> <caption>愛鷹スマートIC周辺（愛鷹、片浜、金岡）の開発面積の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>累計開発面積 (ha)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H22</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>23</td> </tr> </tbody> </table> <p>約1.8倍</p> <p>平成23年11月 愛鷹スマートIC地区協議会設立</p> <p>平成24年4月 愛鷹スマートIC連結許可</p> <p>平成28年3月 愛鷹スマートIC開通</p> <p>※H28のデータは、10月までの値 ※口囲いの値は、各年度における開発面積の増加分</p> <p>出典：沼津市開発行為年度別許可面積、件数（愛鷹、金岡、片浜地区） H28愛鷹スマートインターチェンジ利用実態調査</p>	年度	累計開発面積 (ha)	H22	1	H23	3	H24	4	H25	8	H26	10	H27	13	H28	23
年度	累計開発面積 (ha)																
H22	1																
H23	3																
H24	4																
H25	8																
H26	10																
H27	13																
H28	23																
<p>出典</p>	<p>沼津市 建設部 道路建設課「東名高速道路 愛鷹スマートインターチェンジ～開通6ヶ月の交通量及びストック効果について～」</p>																

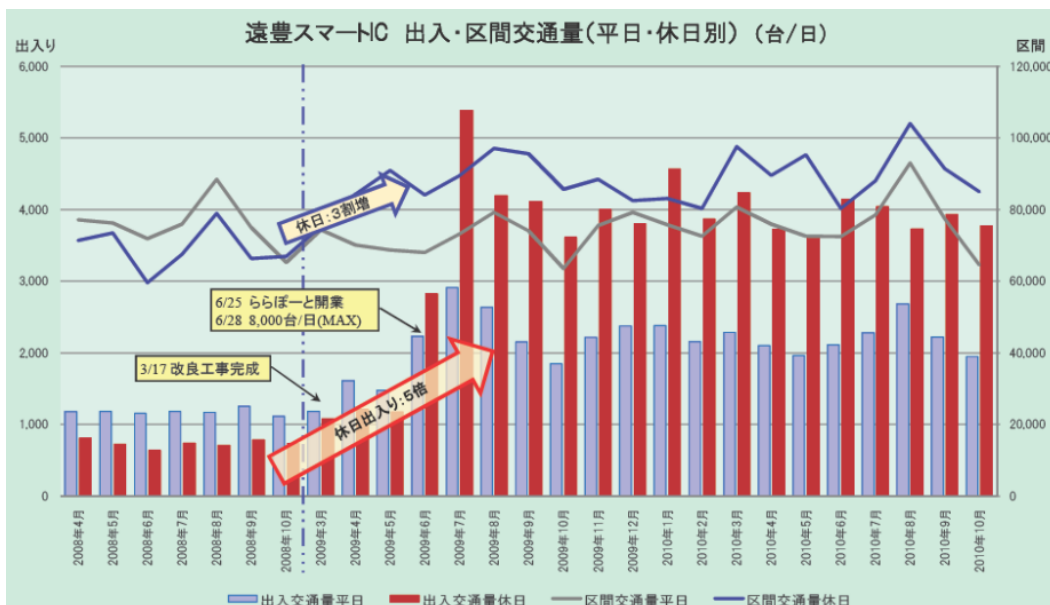
⑤遠州豊田SIC周辺地区（静岡県磐田市）

<p>概要</p>	<p>(経緯)</p> <p>2002年1月 土地区画整理事業の組合設立準備委員会の発足 2004年6月 土地区画整理事業組合設立（42.1ha） 2004年7月 遠州豊田PAスマートIC社会実験協議会の設置 2005年1月～ 計3回にわたる社会実験の実施 2006年 土地区画整理事業区域内の進出企業が全て決定 2007年4月 遠州豊田PAスマートICの本格運用 2007年10月 分譲開始 2010年3月 組合解散</p> <p>(立地した施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商業街区：ららぽーと磐田（2009年6月開業） ・工業用地：28社の希望社を経て、14社に決定
<p>位置図</p>	
<p>交通対策等まちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都市再生整備計画（遠州豊田PA周辺地区）を策定し、市道整備等を実施 ・大型商業施設による交通量の増加に対応するため当初計画から市道整備を追加 <p>【都市再生整備計画事業の概要】</p>

効果

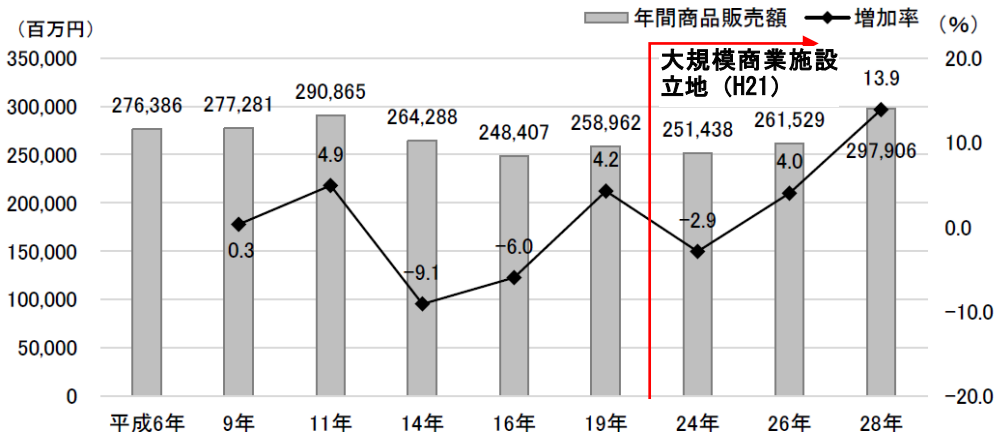
(観光交流の促進)

- ・大規模商業施設の立地によりSIC利用者が増加



(商業の活性化)

- ・年間商品販売額は、大規模商業施設立地以降、当初は東日本大震災による全国的な景気低迷で停滞していたが、その後増加傾向に転じている。



資料: 商業統計、経済センサス-活動調査(平成24年・平成28年)

(雇用の増加)

- ・「都市再生整備計画 事後評価シート」によると、基準年次(2005年)の地区内の雇用者数は30人であったものが、目標年次(2010年)では2,469人(目標値: 1,050人)となっており、当初目標の2倍以上の効果が報告されている。

出典等

- ・(財)道路新産業開発機構「高速道路を活用した地域の活性化部会の報告概要」
- ・静岡県スマートIC協議会「静岡県内におけるスマートIC整備効果」
- ・静岡県磐田市「都市再生整備計画 事後評価シート 遠州豊田PA周辺地区」

⑥安八SIC周辺地区(岐阜県安八町)

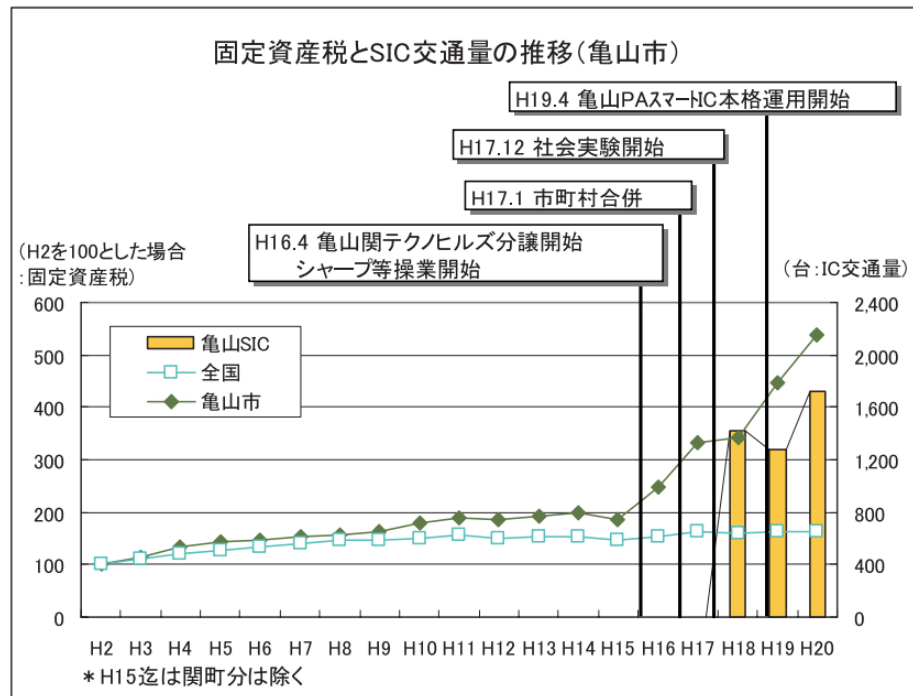
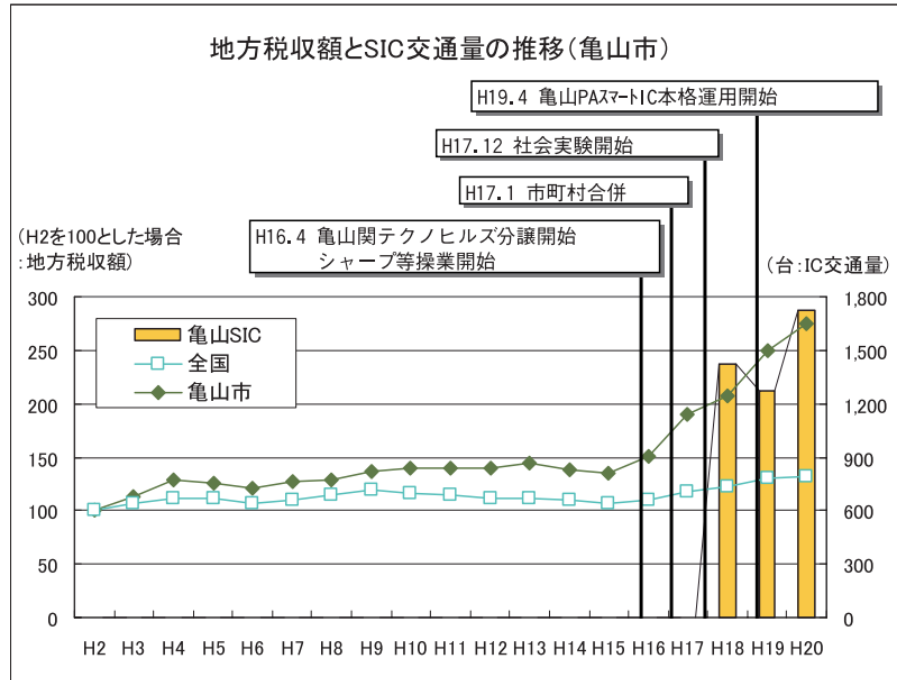
<p>概要</p>	<p>(経緯)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2007年4月：安八町がSICの計画を発表 ・2013年6月：国土交通省が設置を許可 ・2016年5月：着工 ・2018年3月：供用開始 <p>(立地した施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造業、運送業等 																										
<p>位置図</p>																											
<p>効果</p>	<p>・2007年のSIC整備構想の公表以降、安八町では16社の新規企業進出があり、約700人（うち町内雇用約100人）の新規雇用を創出（2019年3月現在）</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;"> <p>企業進出状況 [単位:社]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>進出企業数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H20</td><td>3</td></tr> <tr><td>H21</td><td>0</td></tr> <tr><td>H22</td><td>0</td></tr> <tr><td>H23</td><td>1</td></tr> <tr><td>H24</td><td>0</td></tr> <tr><td>H25</td><td>0</td></tr> <tr><td>H26</td><td>0</td></tr> <tr><td>H27</td><td>0</td></tr> <tr><td>H28</td><td>2</td></tr> <tr><td>H29</td><td>1</td></tr> <tr><td>H30</td><td>7</td></tr> <tr><td>H31</td><td>2</td></tr> </tbody> </table> </div> <div style="flex: 2;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【進出企業16社の内訳】</p> <p>製造業：10社 ● 稼働中</p> <p>運送業：3社 ● 未稼働</p> <p>その他：3社 ● 未稼働</p> </div> </div> </div>	年度	進出企業数	H20	3	H21	0	H22	0	H23	1	H24	0	H25	0	H26	0	H27	0	H28	2	H29	1	H30	7	H31	2
年度	進出企業数																										
H20	3																										
H21	0																										
H22	0																										
H23	1																										
H24	0																										
H25	0																										
H26	0																										
H27	0																										
H28	2																										
H29	1																										
H30	7																										
H31	2																										
<p>出典</p>	<p>安八スマートインターチェンジ地区協議会「名神高速道路 安八スマートインターチェンジ～開通後1年の利用状況及び整備効果について～」</p>																										

⑦ 亀山PA地区 (三重県亀山市)

<p>概要</p>	<p>(まちづくりの経緯・スマートIC整備年次)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2002年 4月：亀山・関テクノヒルズ造成開始 ・2005年 12月：亀山PAスマートICを社会実験的に設置 ・2007年 4月：亀山PAスマートICの本格導入 ・2008年 2月：亀山・関テクノヒルズ竣工（第4期造成工事） <p>(立地した施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・亀山・関テクノヒルズでは、SIC整備直後からの企業進出が相次ぎ、SIC整備による企業進出が進展 																																																												
<p>位置図</p>																																																													
<p>効果</p>	<p>(交通面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣接する工業団地までの距離が約2 km短縮され、所要時間が7分短縮 ・国道1号で発生していた朝・夕の渋滞（最大4.2km）が大幅に緩和 <p>(製造業出荷額等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・亀山・関テクノヒルズ工業団地の分譲開始までは、ほぼ全国水準と同様の推移をしてきたが、分譲の翌年には約80%増となり、その後も増加が顕著 <div data-bbox="726 1460 1417 1989"> <p>製造品出荷額とSIC交通量の推移(亀山市)</p> <table border="1"> <caption>製造品出荷額とSIC交通量の推移(亀山市)</caption> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>製造品出荷額 (H2=100)</th> <th>SIC交通量 (台)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H2</td><td>100</td><td>0</td></tr> <tr><td>H3</td><td>100</td><td>0</td></tr> <tr><td>H4</td><td>100</td><td>0</td></tr> <tr><td>H5</td><td>100</td><td>0</td></tr> <tr><td>H6</td><td>100</td><td>0</td></tr> <tr><td>H7</td><td>100</td><td>0</td></tr> <tr><td>H8</td><td>100</td><td>0</td></tr> <tr><td>H9</td><td>100</td><td>0</td></tr> <tr><td>H10</td><td>100</td><td>0</td></tr> <tr><td>H11</td><td>100</td><td>0</td></tr> <tr><td>H12</td><td>100</td><td>0</td></tr> <tr><td>H13</td><td>100</td><td>0</td></tr> <tr><td>H14</td><td>100</td><td>0</td></tr> <tr><td>H15</td><td>100</td><td>0</td></tr> <tr><td>H16</td><td>100</td><td>0</td></tr> <tr><td>H17</td><td>100</td><td>0</td></tr> <tr><td>H18</td><td>180</td><td>1000</td></tr> <tr><td>H19</td><td>250</td><td>1600</td></tr> <tr><td>H20</td><td>350</td><td>2400</td></tr> </tbody> </table> </div>	年次	製造品出荷額 (H2=100)	SIC交通量 (台)	H2	100	0	H3	100	0	H4	100	0	H5	100	0	H6	100	0	H7	100	0	H8	100	0	H9	100	0	H10	100	0	H11	100	0	H12	100	0	H13	100	0	H14	100	0	H15	100	0	H16	100	0	H17	100	0	H18	180	1000	H19	250	1600	H20	350	2400
年次	製造品出荷額 (H2=100)	SIC交通量 (台)																																																											
H2	100	0																																																											
H3	100	0																																																											
H4	100	0																																																											
H5	100	0																																																											
H6	100	0																																																											
H7	100	0																																																											
H8	100	0																																																											
H9	100	0																																																											
H10	100	0																																																											
H11	100	0																																																											
H12	100	0																																																											
H13	100	0																																																											
H14	100	0																																																											
H15	100	0																																																											
H16	100	0																																																											
H17	100	0																																																											
H18	180	1000																																																											
H19	250	1600																																																											
H20	350	2400																																																											

(税収)

- ・工業団地の造成と一体となってSICが整備されたことで、地方税収入額が増加
- ・固定資産税からSIC整備効果についてみると、平成2年から全国水準を上回る推移をしているが、特に亀山・関テクノヒルズが分譲されてから急激に増加
- ・分譲後の平成14年に約200%を超え、平成19年SICが本格運用されると、500%を超える推移を示した。



出典等

- ・一般社団法人道路審産業開発機構報告「名阪国道沿線工業団地の躍進」
- ・住友商事による官・民一体産業開発事業
- ・中部地方整備局HP

(2) まちづくり手法の事例

SIC周辺のまちづくり手法の参考事例として、IC周辺において地域未来投資促進法を活用した土地利用調整（農用地区域の解除）を行った須坂市の事例と、千曲市と同様に非線引き都市計画区域の用途地域外において、「開発整備促進区を定める地区計画」の手法で大規模商業施設の立地を可能にした南アルプス市の事例を整理します。

■ 事例の概要

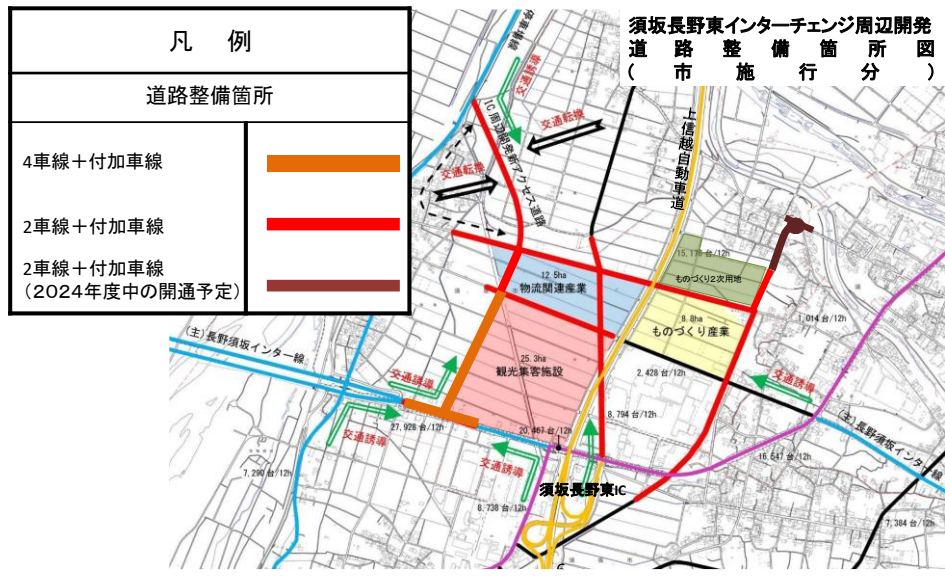
地区名	概要
須坂長野東IC周辺地区 （長野県須坂市）	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模商業施設、宿泊施設、物流施設、工場の立地を誘導 ・地域未来投資促進法の土地利用調整スキーム、市街化調整区域における地区計画を活用して民間施設の立地を誘導 ・渋滞対策として、必要な道路を市の主導で整備 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>観光集客施設用地・物流関連産業施設用地の様子（2025年3月現在）</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>ものづくり産業施設用地・ものづくり2次用地の様子（2025年3月現在）</p>  </div> </div>
南アルプスIC南地区 （山梨県南アルプス市）	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模商業施設、地域交流施設（地元企業）の立地を誘導 ・非線引き都市計画区域の用途地域外であるため、「開発整備促進区を定める地区計画」を活用し、大規模商業施設、地域交流施設の立地を誘導 ・広域からの集客を支え、市内の移動拠点となるバス停留所や駐車場を整備 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>整備イメージ</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>2024年6月30日にオープンした地域交流エリア（飲食、物販、農産物直売所、アウトドア体験、イベント広場）</p>  </div> </div>

①須坂長野東IC周辺地区（長野県須坂市）

概要	<p>(対象地区の土地利用規制)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画法では線引き都市計画区域の市街化調整区域 ・農振法では農業振興地域の農用地区域 ・農地法では農用地区域内農地 <p>(整備の内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業や物流機能を強化し、観光商業機能、防災機能等の導入を図り、中心市街地と相互に連携、分担して、市全体の活性化を牽引する拠点地区として整備を推進
----	---

位置図	
-----	--

まちづくり手法	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地転用等の農地調整は厳しく規制されており、この調整が大きな課題 <p>(開発手法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域未来投資促進法に沿って土地利用調整を実施するため、物流関連産業と観光集客施設を民間主体の開発として計画 ・市街化区域の見直しができないことから、開発を可能とするため市街化調整区域における地区計画を決定 ・開発のための道路整備を推進（国土交通省の「官民連携基盤整備推進調査費」を活用し、交通処理計画の検討、道路概略設計を実施）
---------	---



出典	須坂市資料
----	-------

②南アルプスIC南地区（山梨県南アルプス市）

<p>概要</p>	<p>(対象地区の土地利用規制)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧南アルプス完熟農園の跡地 ・都市計画法では非線引き都市計画区域の用途地域外 ・農振法では農業振興地域の農用地区域外 <p>(整備の内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南アルプスIC新産業拠点整備事業として、「人々が集まり、地域と繋がる集客交流拠点」という土地利用コンセプトの下、一体的な再開発を推進 ・大規模商業施設（誘致施設）と地元の企業による「地域交流施設」を中心に、交通環境と地域の魅力を活かした集客と交流の拠点を実現し、市の玄関口となる活力ある新たな街を整備
<p>位置図</p>	 <p>The location map on the left shows the project area (対象地区) in a red dashed box within the surrounding urban and rural landscape. The conceptual diagram on the right illustrates the project's goals: '交流する' (Exchange) through '地域交流施設' (Local exchange facilities), 'もっと繋げる' (Connect more) through '交通ゾーン' (Traffic zone), and '集客する' (Attract visitors) through '大規模商業施設' (Large-scale commercial facilities) such as 'コストコ(仮)南アルプス倉庫店' (Costco temporary Nan'Alps warehouse store).</p>
<p>開発手法</p>	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模集客施設の立地が可能となる都市計画を定めることが必要 ・地区内は、公共施設はほとんど整備されていない <p>(開発手法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模集客施設に係る土地の区域に限る用途制限の緩和と、当該施設の立地によって発生する負荷を緩和するために必要な交通施設の配置や建築物等の制限を、都市計画で一括して定め誘導するため、「開発整備促進区を定める地区計画」を採用 ・広域からの集客を支え、市内の移動拠点となるバス停留所や駐車場を整備 <p>南アルプス都市計画 南アルプスIC南地区地区計画 計画図</p>  <p>The detailed site plan shows the layout of the project area with three main zones: '交流ゾーン' (Exchange zone) of approximately 3.6 ha, '交通ゾーン' (Traffic zone) of approximately 1.1 ha, and '集客ゾーン (開発整備促進区)' (Attracting visitors zone / development promotion zone) of approximately 6.8 ha. The plan includes various roads such as '区画道路1号 (W=9.0m)', '区画道路2号 (W=9.0m)', and '区画道路3号 (W=9.0~11.0m)'. A legend (凡例) identifies the zones and the '地区計画区域' (Local plan area). A scale of 1:2500 and a north arrow are also provided.</p>
<p>出典</p>	<p>南アルプス市資料</p>

4 マクロ的な社会経済情勢

(1) 製造業の立地動向

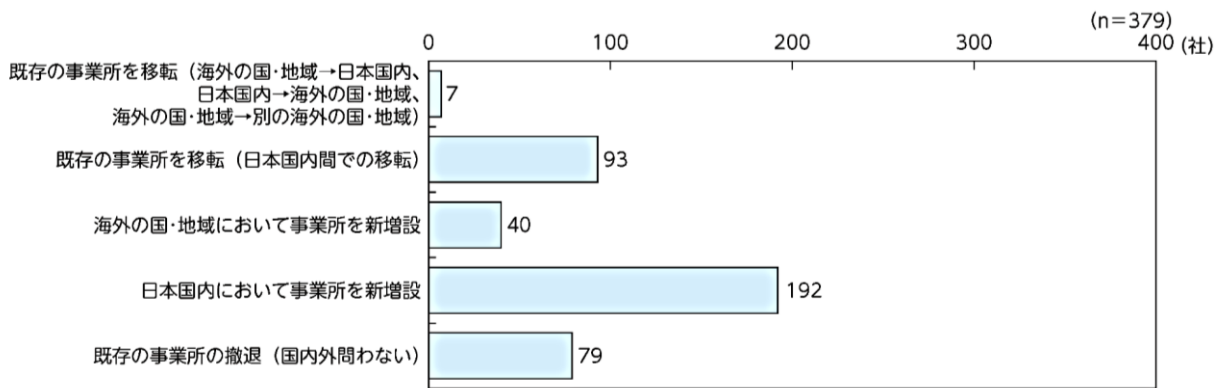
① 事業所の移転や新增設の動向

「2024年版ものづくり白書」（経済産業省）によると、直近1年間の事業所の移転や新增設の動向は、「日本国内において事業所を新增設」や「既存の事業所を移転（日本国内間での移転）」を実施した企業が多くなっています。

また、今後の事業所の移転や新增設の計画については、「既存の事業所を移転（日本国内間での移転）」、「日本国内において事業所を新增設」と回答する事業者が多く、国内間での移転や国内外における新增設の動きがみられます。

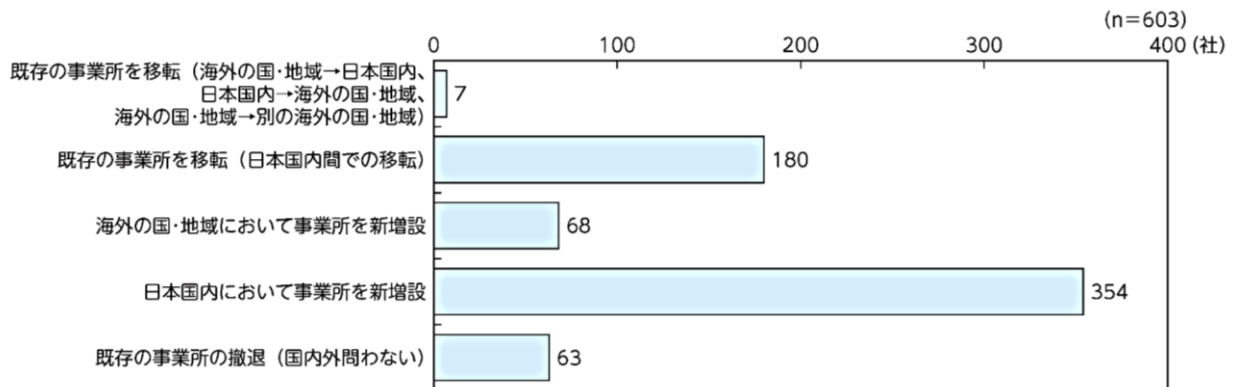
近年の円安進行に伴う国内生産コストの相対的な低下及び経済安全保障の政策潮流を背景に生産製造拠点の国内回帰が進展していると考えられます。

■ 直近1年間の事業所の移転や新增設の状況



出典：2024年版ものづくり白書（ものづくり基盤技術振興基本法第8条に基づく年次報告）

■ 今後の事業所の移転や新增設の計画



出典：2024年版ものづくり白書（ものづくり基盤技術振興基本法第8条に基づく年次報告）

②工場の立地動向

工場立地動向調査によると、2023年の立地件数は799件、前年と比較して123件減少した一方、立地面積は1,544ha、前年と比較して264ha増加しており、業種別では主に電気業が202ha、電子部品・デバイスが139ha増加したと報告されています。

また、工場立地は、高速ICと近接して行われる傾向があり、立地件数の約半数が高速ICから5 km以内の立地となっています。

直近5年間の各交通インフラ施設と工場立地場所の平均距離の推移では、高速ICとの近接性が際立っており、立地場所として高速ICとの近接性を重視していると報告されています。

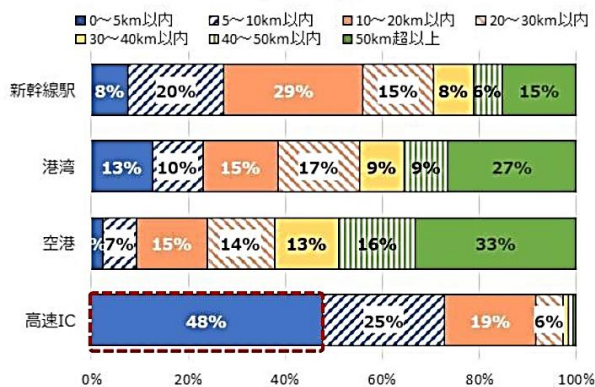
■工場立地件数・面積の推移(2019年～2023年)



出典：経済産業省「2023年（1月～12月）工場立地動向調査の結果について」（2025年4月18日）

■交通インフラと工場立地場所の関係

各インフラ施設と工場立地場所との距離別 立地件数割合 [2023年]



各インフラ施設と工場立地場所の平均距離の推移 [2019年～2023年]



出典：経済産業省「2023年（1月～12月）工場立地動向調査の結果について」（2025年4月18日）

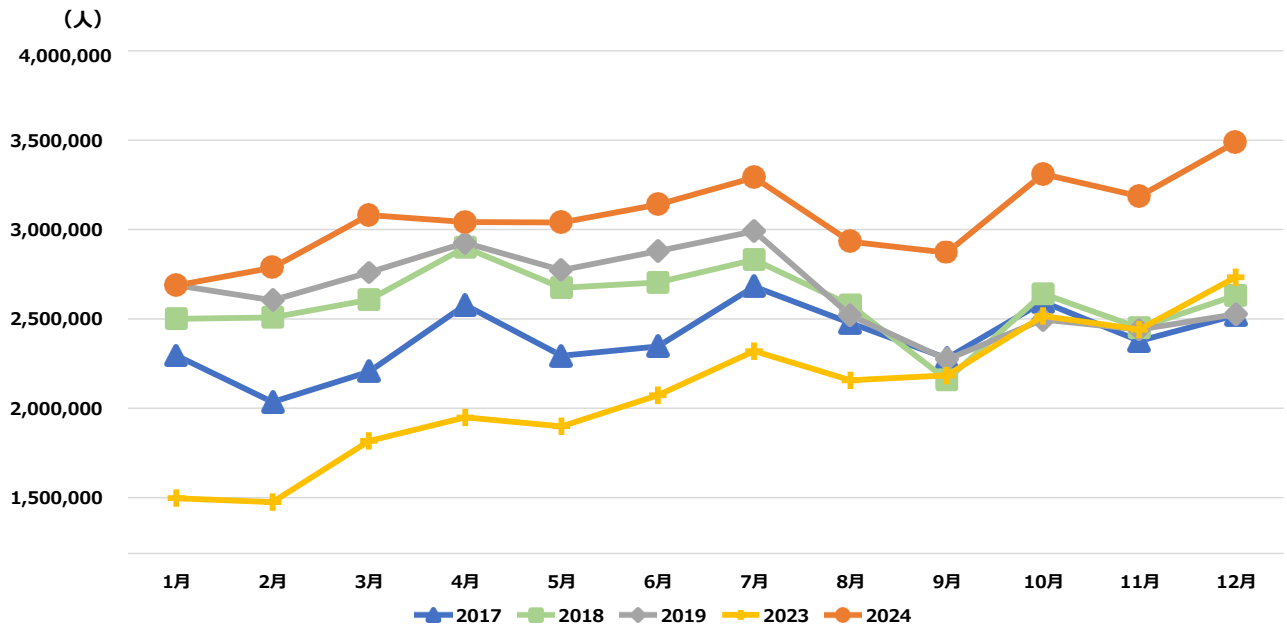
(2) インバウンドの動向

①全国的な動向

日本政府観光局によると、2024年の訪日客数は、3,600万人超の過去最多を記録し、東アジアのみならず東南アジア、欧米豪・中東においても実数を増やし、年間過去最高の更新につながったと報告されています。

また、訪日外国人消費動向調査によると、初訪問者は三大都市圏が多いものの、リピーターは地方部を訪れる傾向にあります。

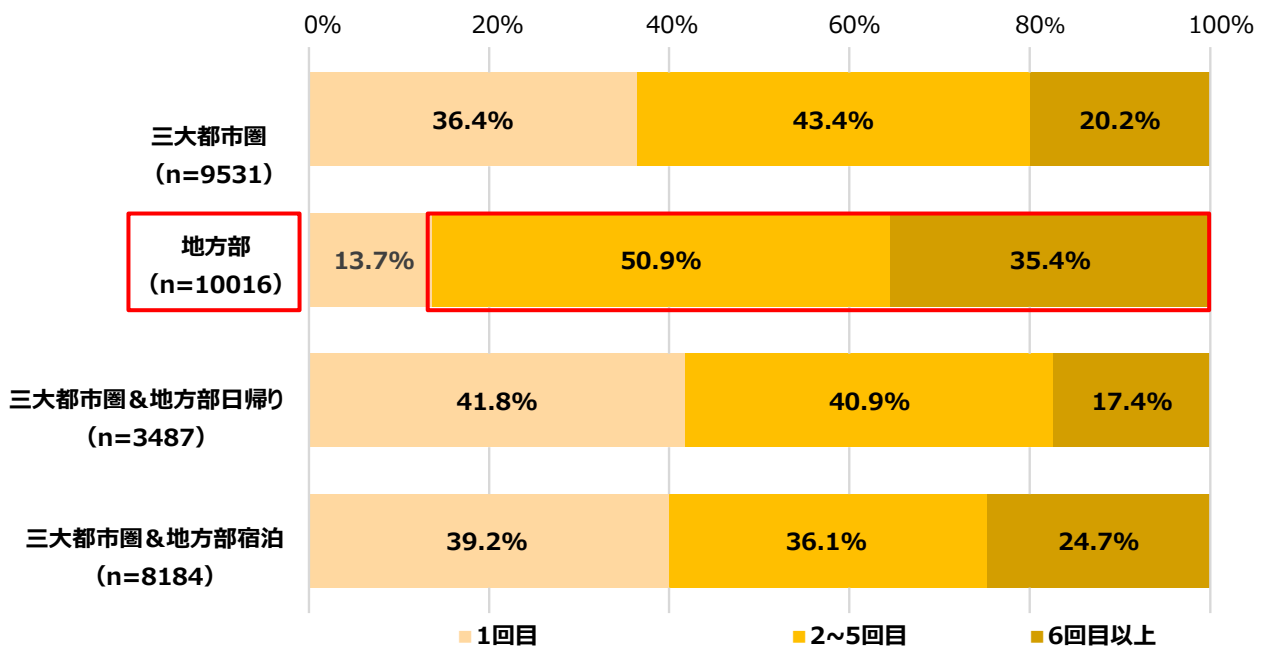
■訪日外客数月別推移(2017年~2024年)



※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により訪日外客数が大幅に減少していた2020年~2022年の数値は除く。
 ※2019年7月以降、日韓情勢悪化等により訪日旅行を控える動きが発生していたこと等もあり、訪日韓国人旅行者数が減少傾向にあったことに留意する。

出典：日本政府観光局「訪日外客数(2024年12月および年間推計値)」

■訪日客の来訪回数



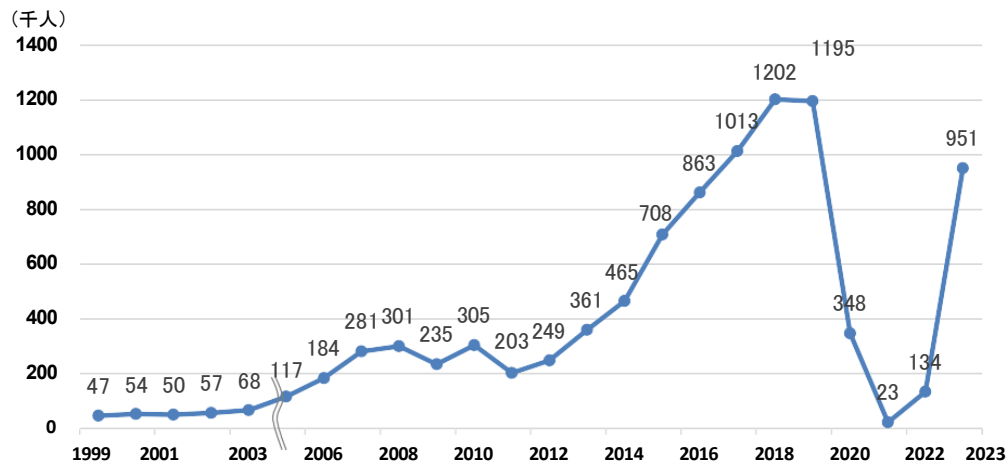
出典：日本政府観光局「訪日外客数(2024年12月および年間推計値)」

②長野県の動向

外国人延宿泊者数調査結果によると、2023年の長野県内における外国人延べ宿泊数は対前年比607.4%の高い増加率を記録しています。北信濃地域全体では、対前年比493.0%の増加率となっています。

2023年は全国的に訪日外客数がコロナ禍からの回復途上の時期であったことから、長野県でも外国人延べ宿泊数はコロナ禍以前に戻っていませんが、2024年は更なる増加が期待されます。

■延宿泊者数の推移



出典：長野県観光スポーツ部山岳高原観光課「令和5年外国人延宿泊者数調査結果」（2024年11月13日）

■広域・地域振興局別延宿泊者数

(単位：人泊、%)

区 分	令和4年		令和5年			
	延宿泊者数	構成比	延宿泊者数	構成比	対前年増減	対前年比
東 信 州	35,302	26.3	186,919	19.7	151,617	429.5
佐 久	31,394	23.3	177,490	18.7	146,096	465.4
上 田	3,908	2.9	9,429	1.0	5,521	141.3
諏 訪	2,839	2.1	23,069	2.4	20,230	712.6
伊 那 路	2,956	2.2	15,060	1.6	12,104	409.5
上伊那	963	0.7	5,367	0.6	4,404	457.3
南信州	1,993	1.5	9,693	1.0	7,700	386.4
木 曾 路	1,036	0.8	17,717	1.9	16,681	1610.1
日 本 ア ル プ ス	40,721	30.3	402,353	42.3	361,632	888.1
松 本	30,188	22.4	254,849	26.8	224,661	744.2
北アルプス	10,533	7.8	147,504	15.5	136,971	1300.4
北 信 濃	51,621	38.4	306,099	32.2	254,478	493.0
長 野	32,032	23.8	132,188	13.9	100,156	312.7
北 信	19,589	14.6	173,911	18.3	154,322	787.8
合 計	134,475	100.0	951,217	100.0	816,742	607.4

出典：長野県観光スポーツ部山岳高原観光課「令和5年外国人延宿泊者数調査結果」（2024年11月13日）

(3) 食関連産業の政策動向

改正食料・農業・農村基本法（令和6年年6月5日施行）に基づく初の「食料・農業・農村基本計画」では、輸出拡大などにより「海外から稼ぐ力」を強化することを掲げ、2030年度の目標について、農林水産物・食品の輸出額5兆円（令和6年度は1兆5,000億円）、食品産業の海外展開による収益額3兆円（同1兆6,000億円）、インバウンドによる食関連消費額4兆5,000億円（同1兆6,000億円）としています。

「海外から稼ぐ力」を強化するために、「食品産業の海外展開」や「インバウンドによる食関連消費」は重要で、輸出拡大との相乗効果が期待できるとして、これらの食関連消費の拡大に向けた施策を一体的かつ効果的に進めるとしています。

■ 食品産業を巡る情勢

【生鮮食品、加工食品、外食別の食料支出額の見通し】

（2015年を100とする指数）

1人当たり食料支出（総世帯）（単位：％）

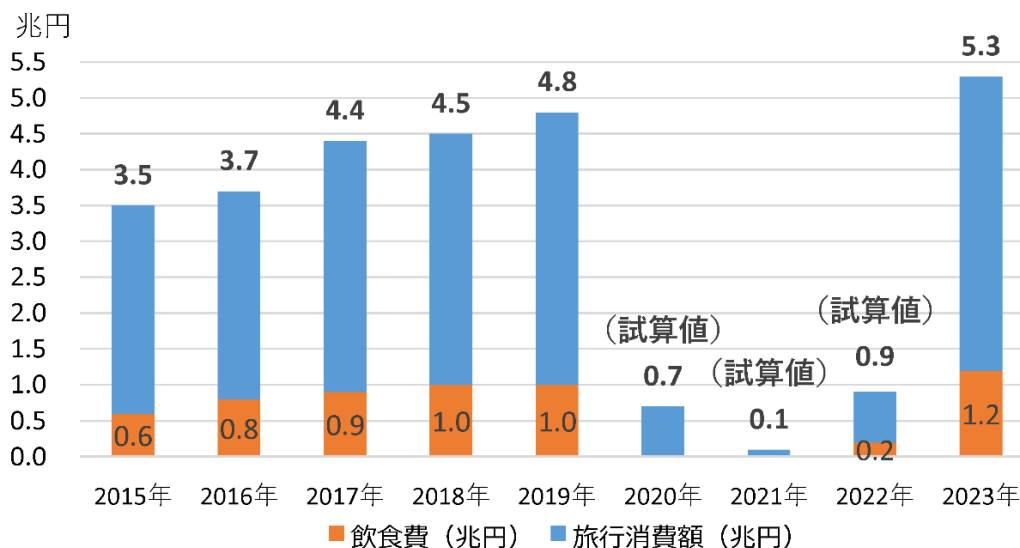
	2015年	2020年	2025年	2030年
生鮮食品	100	99	95	93
加工食品	100	105	110	117
外食	100	104	106	108

食料支出総額（総世帯）（単位：％）

	2015年	2020年	2025年	2030年
生鮮食品	100	97	91	85
加工食品	100	103	105	107
外食	100	102	100	99

出典：農林水産政策研究所「我が国の食料消費の将来推計」（2019年版）より抜粋

【訪日外国人旅行消費額の推移】



出典：「訪日外国人消費動向調査」および「インバウンド消費動向調査」より算出

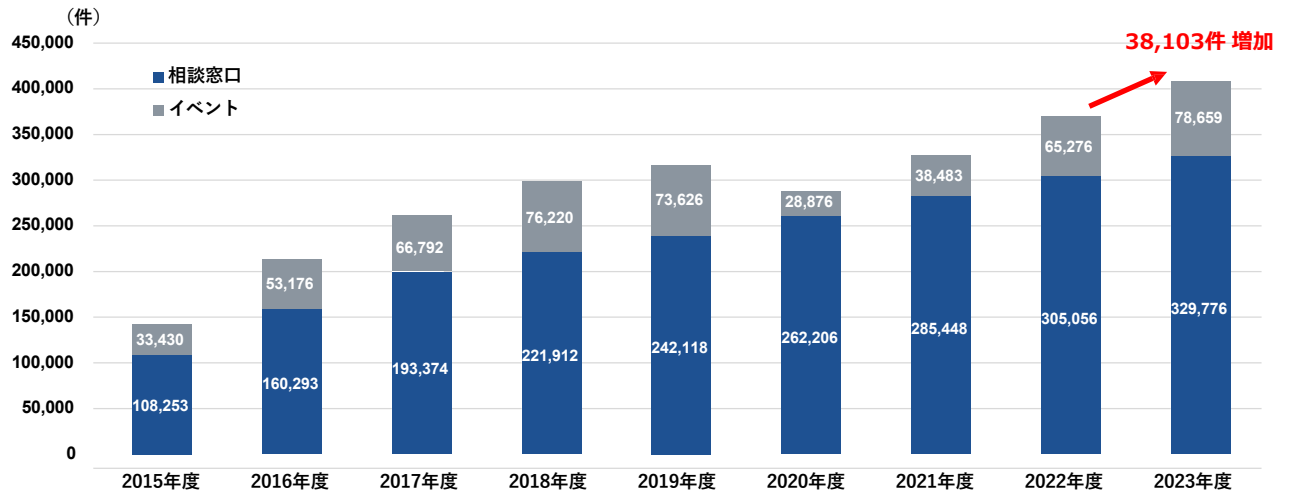
出典：食料・農業・農村政策審議会企画部会（第110回）配布資料

(4) 地方移住

総務省による全国自治体から報告の集計結果によると、2023年度の移住相談は、過去最多の相談件数を記録しています。相談件数が最も多かったのは宮崎県であり、次に長野県、福島県の順となっています。

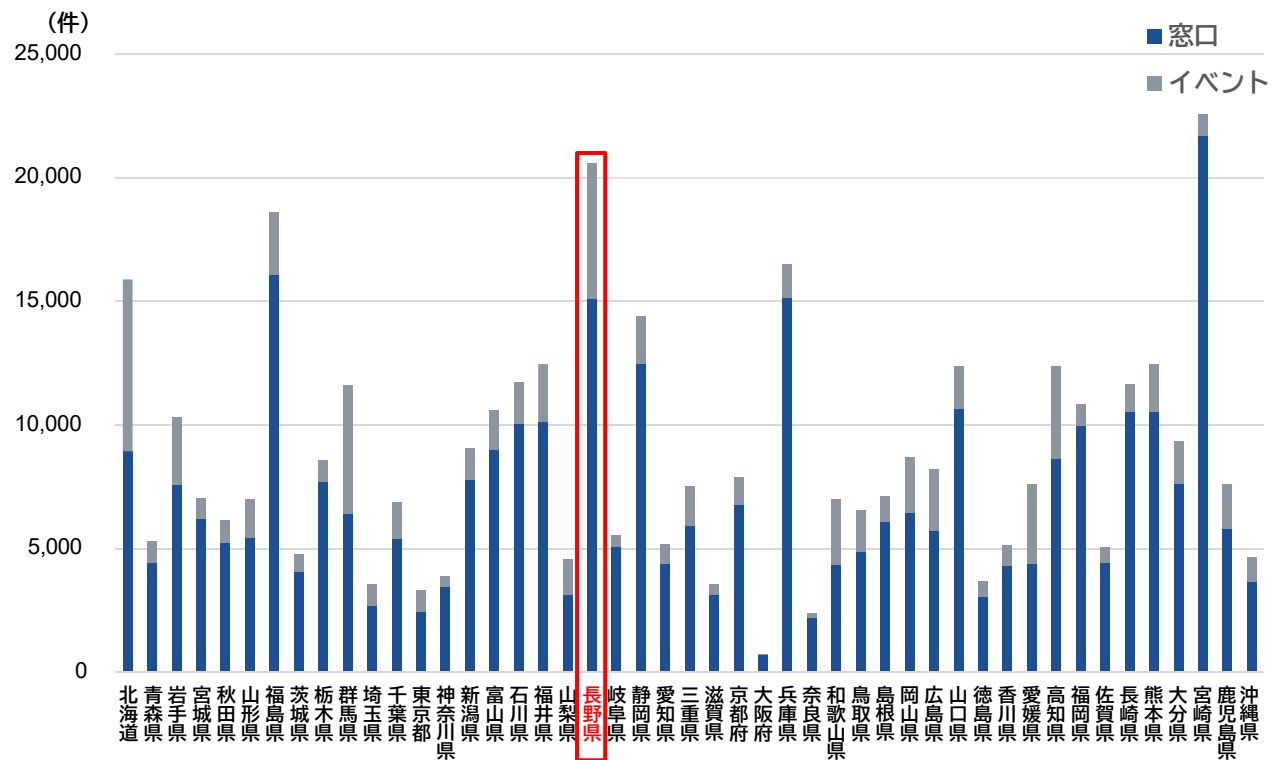
また、長野県（企画振興部）プレスリリース（2025年1月6日）によると、宝島社発行の「田舎暮らしの本」における「移住したい都道府県」ランキングでは長野県が19年連続1位となっています。

■移住相談窓口等において受け付けた相談件数



出典：総務省「移住相談窓口等において受け付けた相談件数」

■各都道府県及び市町村の移住相談窓口等における相談受付件数の状況



出典：総務省「移住相談窓口等において受け付けた相談件数」

5 基礎調査のまとめ

ここまでの検討を踏まえ、屋代SIC周辺のあり方を考える上で考慮する事項を「機会」、「脅威」、「強み」、「弱み」の4つの視点で整理します。

■「機会」、「脅威」、「強み」、「弱み」の4つの視点での基礎調査のまとめ

		機会（プラス要因）	脅威（マイナス要因）
外部環境	（取り巻く状況・時代潮流）	<p>【屋代 SIC 設置による地域活性化のポテンシャル向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 屋代 SIC の設置により高速道路アクセスが向上し、産業立地の促進と物流効率化（果樹など農産物の出荷の利便性向上を含む）、観光入込客数の増加が期待 SIC 周辺開発の事例では、企業立地による生産・販売額、雇用、税収等の効果が発生。住宅地開発の場合は人口定着や商業・医療等生活関連施設の立地の効果も発生 <p>【地方都市における産業・観光・移住のトレンド】</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年、生産製造拠点の国内回帰が進展し、工場立地場所としては高速 IC との近接性が重視される傾向 訪日客数は増加傾向にあり、リピーターは地方部を訪れる傾向で、長野県内の外国人延べ宿泊数も高い増加率を記録 「食料・農業・農村基本計画」（2025 年 4 月閣議決定）では、インバウンドによる食関連消費額の目標（2030 年）を 2023 年の 3 倍の約 45 兆円に設定しており、企業投資が活発化の可能性 長野県は、移住希望地ランキングで上位に位置 	<p>【少子高齢化の進行】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口は少子高齢化を背景として減少傾向が継続 扶助費は人口構造の少子高齢化によって自然増が見込まれ財政制約が強まる見込み <p>【都市間競争の強まり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 旧更埴市圏は、長野市圏、旧戸倉町・旧上山田町圏は上田市圏に組み込まれ、影響下にある状況 須坂市では 2025 年 10 月に長野県内最大の大規模商業施設が開業し、須坂市の吸引力向上が懸念 観光需要は国際情勢やコロナ禍に象徴される社会経済リスクの影響を受ける 千曲市は子育てしやすい環境に不満を持っている人の割合が増加（令和 6 年 5 月調査） <p>【千曲川の氾濫リスク】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年東日本台風では、埴生、東部地区を中心に多くの箇所でも浸水被害が発生 千曲川の概ね 100 年に 1 度程度の浸水想定では、千曲川の右岸のほとんどのエリアで浸水することが想定 指定緊急避難場所は、埴生小学校区など、洪水時に使用できない場所が特に千曲川右岸の地区に多く存在
		<p>強み（プラス要因）</p> <p>【地の利・交通の要衝】</p> <ul style="list-style-type: none"> 上信越自動車道と長野自動車道が交差する更埴 JC や、更埴 IC・姨捨 SIC・坂城 IC があり、全国各地からの自動車によるアクセス利便性 新幹線駅である長野駅、上田駅から、しなの鉄道を利用したアクセス利便性 <p>【暮らしやすさ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2016 年から転入数が転出数を上回る社会増の状態が継続（長野市からの転入が中心） 土地が安くて広いので希望の住宅が建設でき、借入額が抑えられ、子育て費用への余裕が生まれる 近年の小売業の売場面積は、大規模商業施設の立地により増加しており、買物利便性が確保された環境 戸倉上山田温泉は 7 カ所の共同浴場があり、日帰り入浴を気軽に楽しめるなど特徴的な暮らしやすさの資源 <p>【多様な産業力のポテンシャル】</p> <ul style="list-style-type: none"> 製造業の就業割合が高く増加傾向のほか、出荷額は安定し、産業別の付加価値額でも他産業を卓越する水準 農業は果実の生産が盛んで農業産出額は増加傾向で、特にぶどうは、近年、ワイン用ぶどうの栽培面積が増加 年間商品販売額は、安定期に推移し、商圏も「成長商圏」に分類され自立性を維持 千曲市の観光資源は、「千曲川河畔」エリア、「あんず・科野の里」エリア、「旧街道稻荷山」エリア、「姨捨・さらしなの里」エリア、「戸倉上山田温泉」エリアの 5 つの魅力エリアがあり、中でも「戸倉上山田温泉」の観光客数が卓越 	<p>弱み（マイナス要因）</p> <p>【稼ぐ力の低下】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域経済を支える製造品出荷額等は 2018 年から減少傾向 あんずの里など千曲市内の観光スポットは、コロナ禍影響からの回復の遅れ 市内で「稼ぐ力」がある「戸倉上山田温泉」でも、施設の老朽化や回遊性の面で課題 <p>【若い世代の減少の継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> 長野市からの転入超過数が縮小傾向にあり、社会増の増加幅が縮小の兆し 夫婦と子供から成る世帯は 2005 年から減少傾向 20 歳前後の若年層が転出超過 20 代の有配偶率が低く、出生数が少ない
内部環境	市全体		
	屋代 SIC 周辺地区	<p>【歴史・緑・農業体験が融合した魅力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象地区の南側には「一重山」及び「有明山」があり、地域のランドマーク 科野の里歴史公園、森將軍塚古墳や長野県立歴史館は、歴史的価値や歴史教育・地域史の学びと、自然景観・自然散策の楽しさの両方を兼ね備えた、家族でも楽しめる魅力的なスポット サンパワーふれあい公園は、市民憩いの大型公園で、特に子ども連れファミリーや親子に人気のスポット 対象地区には「あんずの里アグリパーク」や「あんずの里物産館」が立地 <p>【学校教育施設の立地による若い世代の存在】</p> <ul style="list-style-type: none"> 屋代高校、屋代南高校が対象地区の近隣に立地しているほか、清泉大学農学部（仮称）が開設予定であり、若年層の人口確保や市の活性化が期待 <p>【災害リスク】</p> <ul style="list-style-type: none"> 屋代 SIC 周辺地区の計画降雨規模の浸水深は、更埴 IC 周辺の浸水深と比べて小さく、浸水リスクがより低い 	<p>【交通環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県道白石千曲線は、ピーク時の旅行速度が 20 km/時未満（令和 3 年） 交通量調査（令和 7 年）では通勤・通学のピーク時に横町交差点から東方向に 370m の渋滞長を観測（同様の渋滞は平日 15 時台、16 時台でも発生） 対象地区周辺のバス路線は 5 回未満/日

第3章 団体・市民等の意見把握

I 市民アンケート調査

(1) 調査の概要

屋代SIC周辺地区の整備方針の検討において、子育て世代等の市民の意見を把握するために千曲市の公式LINEを活用したアンケート調査を実施し（2025年6月13日～7月13日）、251名の市民から回答がありました。

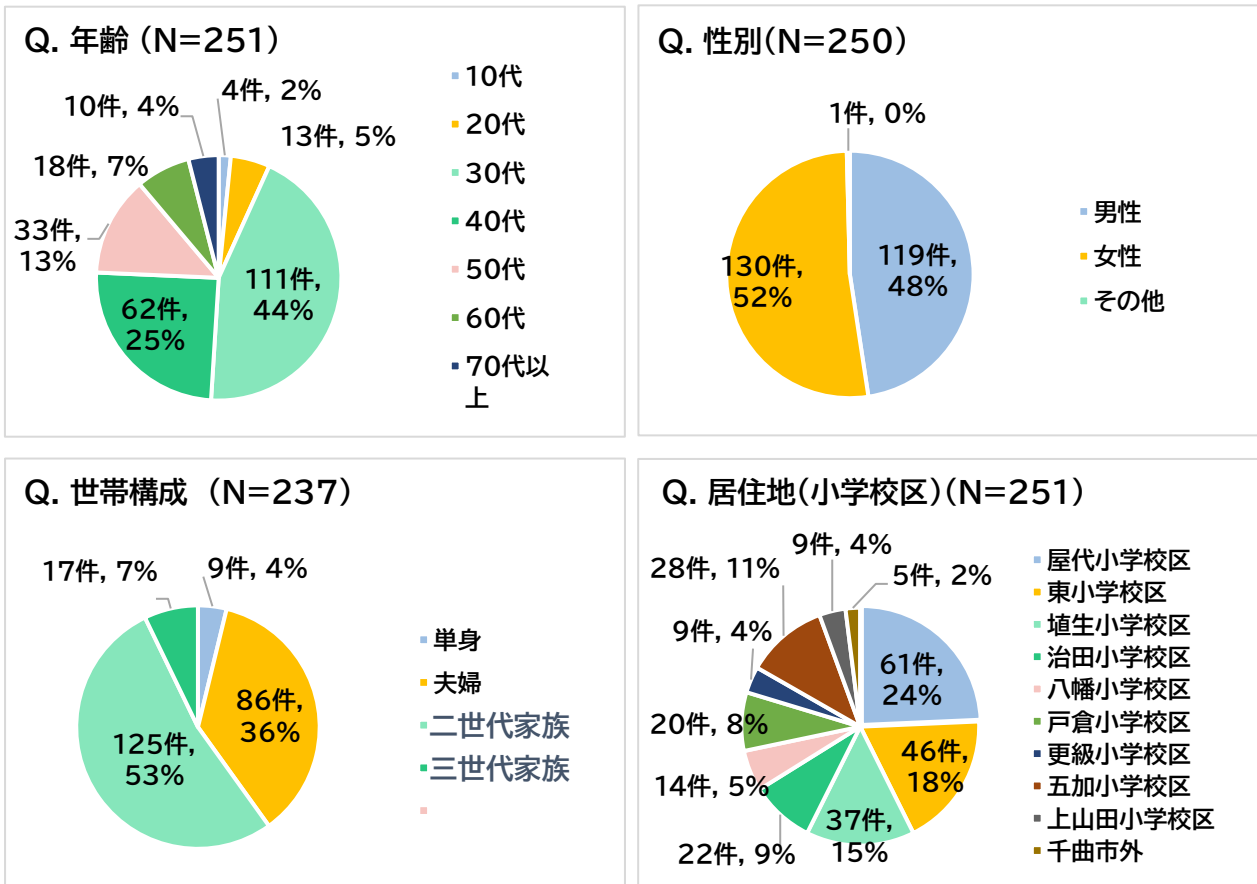
【調査項目】

- ①回答者の属性：年齢、性別、世帯構成、住まい（小学校区）
- ②平日の過ごし方～平日によく行く（利用する）場所や施設、その目的
- ③休日の過ごし方～平日によく行く（利用する）場所や施設、その目的
- ④屋代SIC周辺地区に「こんな施設・場所があったらいいな」と思うこと
- ⑤屋代SIC周辺地区の将来像
- ⑥屋代SIC周辺地区のまちづくりの認知度

(2) 調査の結果概要

I) 回答者属性

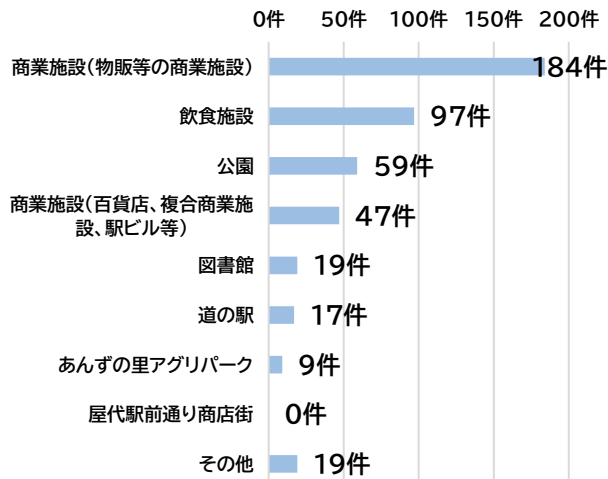
30～50歳の子育て世代が8割以上で30代からの回答が4割を占めてきます。



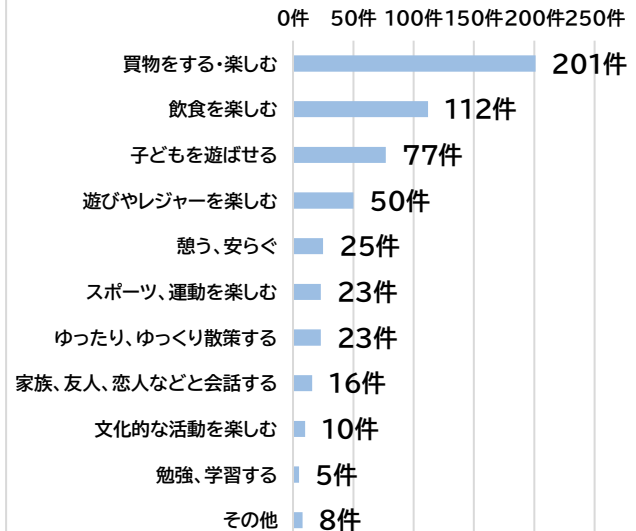
2) 平日の過ごし方

商業施設を筆頭に飲食、公園が多く、買い物や飲食、子どもとの遊びが過ごし方の中心となっています。

Q. 通学先や通勤先を除いて、あなたが、普段平日によく行く(利用する)場所を教えてください。市内外は問いません。(複数回答可) (N=244)



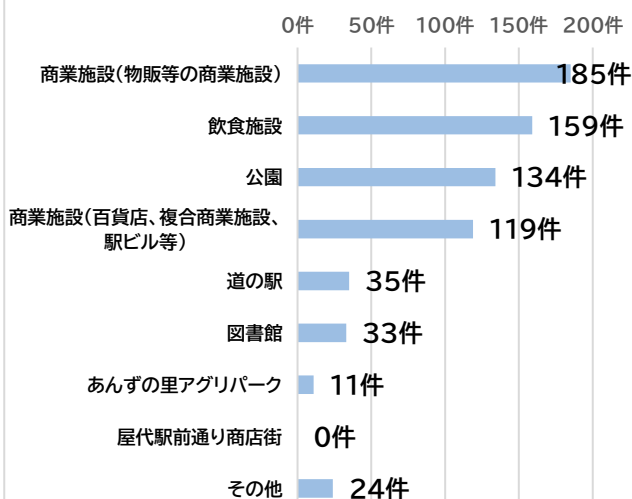
Q. 左の設問で回答した場所での過ごし方や訪問目的を教えてください。(複数回答可:いくつでも) (N=252)



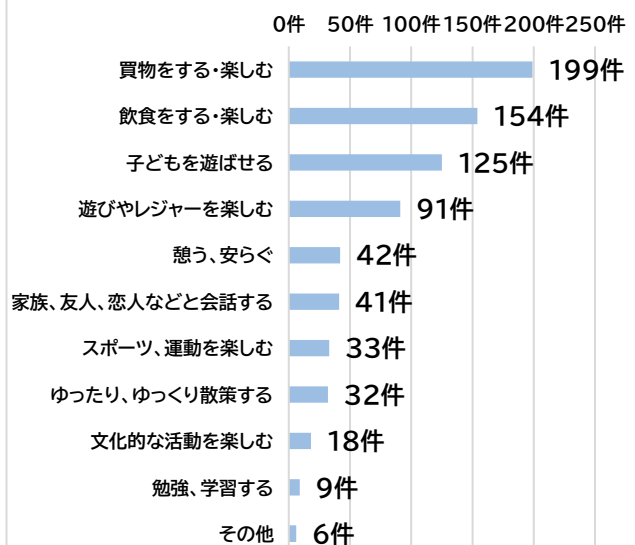
3) 休日の過ごし方

平日の傾向と基本的に同様であり、家族で過ごせる場が中心となっています。

Q. あなたが、普段休日によく行く(利用する)場所を教えてください。市内外は問いません。(複数回答可) (N=250)



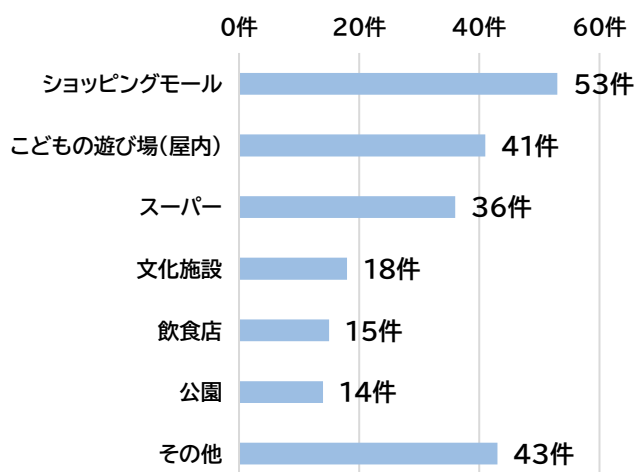
Q. 左の設問で回答した場所での過ごし方や訪問目的を教えてください。(複数回答可:いくつでも) (N=250)



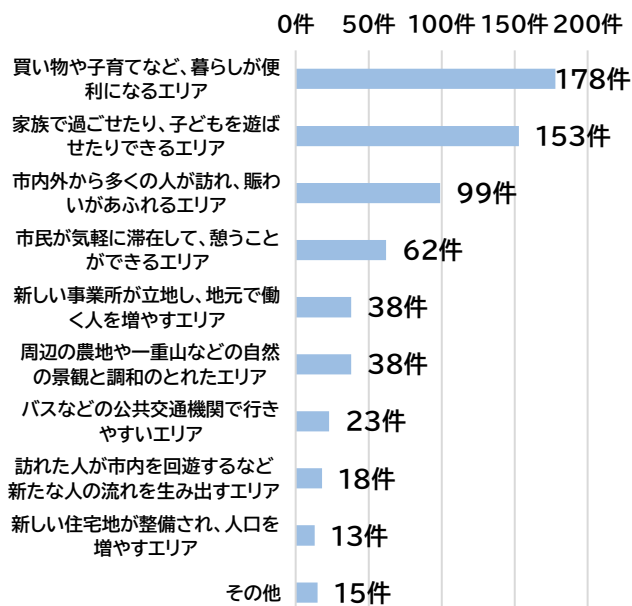
4) 屋代SIC周辺地区のまちづくりに関する認知度や将来像に対するニーズ

平日・休日に過ごせる場となるほか、市内外からの集客で賑わいを感じられる場に対するニーズもあります。

Q.具体的に(仮称)屋代 SIC 周辺地区に「こんな施設・場所があったらいいな」と思うことがあれば、その施設・場所を教えてください。
(自由記述) (N=158)



Q. (仮称)屋代SIC周辺地区が今後どのようなエリアになると良いと思いますか。
(3つまで選択) (N=251)



2 市民ワークショップ

(1) 調査の概要

屋代SIC周辺地区の整備方針の検討において、市民が求める機能・施設・空間のあり方等を把握するために実施しました（2025年7・8月に2回開催）。

ワークショップでは、屋代SIC周辺地区のまちづくりのゾーニングを提示し、各ゾーンについての意見交換を行いました。

【第1回】（7月19日）・・・参加者12名

テーマ：屋代SIC周辺地区での利用シーン（過ごし方）を考えよう

【第2回】（8月23日）・・・参加者12名

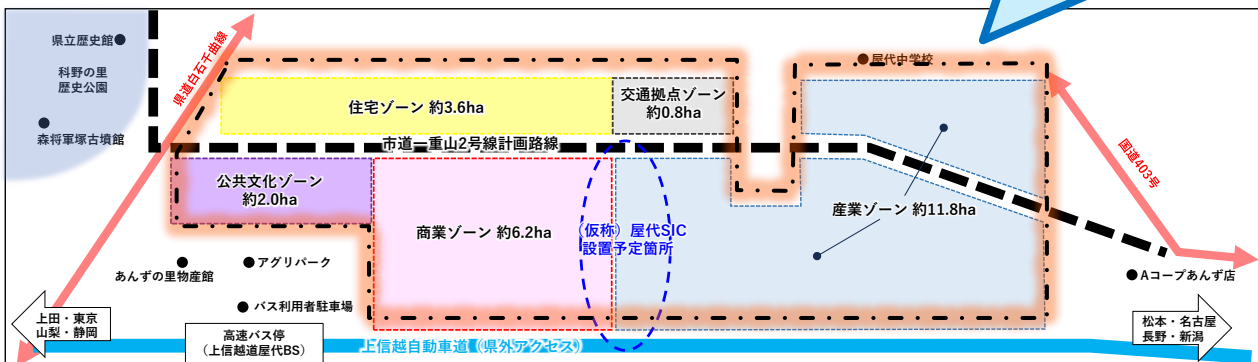
テーマ：屋代SIC周辺地区で過ごす際に必要な機能・空間を考えよう

■ワークショップの様子と屋代SIC周辺地区のゾーニング



屋代 SIC 周辺地区で構想されている
下記の5つのゾーンの「ありたい姿」を基本に意見交換

- ①公共文化ゾーン
- ②商業ゾーン
- ③交通拠点ゾーン
- ④産業ゾーン
- ⑤住宅ゾーン



■第1回ワークショップの主な意見・・・利用シーン(過ごし方・あり方)

	商業ゾーン	公共文化ゾーン	住宅ゾーン	交通拠点ゾーン	産業ゾーン
平日	<ul style="list-style-type: none"> ・地元野菜目当てで買い物している ・子ども達が遊べる ・ベビーカーで買い物しやすい ・自分が育てた野菜を販売している ・カフェで仕事したり、くつろいだりしている ・デリバリーサービスを利用している 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内外の子ども達が遊べる屋内で遊ぶ ・子どもを遊ばせつつ、親はお茶や会話を楽しむ ・中高生が気軽に集い、勉強している ・電源、通信環境があり、飲食が可能で無料で使えるスペースで過ごしている ・体育施設でスポーツを楽しむ ・市内外ファミリー層や中高生にとって居場所となる場、屋内で子どもが遊べる場が不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・地価が長野市より安いので、若い子育て世帯が住みやすい ・家庭菜園で土いじりをしている ・幹線道路の自動車が気にならない ・友達と公園で遊んでいる ・ゆっくり散歩している ・在宅ワークの合間にカフェで一息入れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・雨の日でも快適にバスを待っている ・地域の人や観光客が落ち着いて過している ・コワーキングスペースでモバイルワーク ・待ち合わせができる ・出張帰りに、家族に迎えにきてもらったついでに食事や買い物を楽しむ ・セルフのガソリンスタンドで給油 	<ul style="list-style-type: none"> ・都会に出た人が地元に戻るための雇用の場がある ・市内外の人、幅広い年齢に対応した雇用の場がある ・コワーキングスペースがある ・地域を大切にする企業が立地 ・森将軍塚古墳からの眺めを阻害しない低層の施設が立地
休日	<ul style="list-style-type: none"> ・地元食材を使ったカフェで飲食 ・新鮮な魚を買っている ・家族で買い物や食事を楽しむ ・大きな本屋に行っている ・スポーツ用品を購入している ・無料駐車場で気軽にお出かけ ・映画やスポーツを楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが遊び、学ぶことができる ・用事があるとき子どもを預けられる ・アスレチック等で気軽な運動を楽しむ ・家族で子どもと遊んでいる ・図書室でゆったり過ごしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅ゾーンにある小さな公園で過ごす ・自宅周辺を散歩している ・庭にプールを出して水遊びができる ・シェアキッチンや共有スペースでのBBQを友人と楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・無料の駐車場があり、利用しやすい ・車中泊ができる ・高速バスで東京へ行くときに使う ・食事をしたり、お土産を買ったりしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業見学や体験を通して、大人も子供も市内の産業を学んでいる ・食品工場の見学に来ている ・お酒の工場見学に来ている ・物流ターミナル拠点の見学に来ている ・県外の新鮮な海産物を届ける物流拠点がある
災害	—	・災害時に避難場所として活用できる	—	—	—

■第2回ワークショップの主な意見・・・第1回の意見交換の結果を基にした機能や空間のイメージ

商業ゾーン

ターゲットと基本的な条件

(無料)駐車場併設

フリースペース・イベント広場

施設のターゲット層:30~50代

“月の都(日本遺産)”など千曲市らしいコンセプト・テーマを大切にする

地産地消と市内にない新鮮な海産物・畜産物の購入、道の駅機能、起業志向の若者等のチャレンジの場

地域の野菜やクラフトを直購入

千曲市産の食材、飲食販売 生産者と繋がることができる仕組み等のチャレンジショップ(起(生産者の写真付き販売)

家庭菜園の産品も持ち込み販売可能

業支援の場)もある

新鮮な肉、野菜、魚介を購入でき、敷地の中でBBQもできる

屋代SICを活かし、市外から新鮮な水産・畜産物を入荷

食事や会話を楽しめたり、家族で過ごせたりする場

家族で食事、買い物を楽しめる。大きな本屋もほしい。

(買物の間に)一息つける場、ゆっくりできる場がある

映画館、足湯などがあり、一日中楽しめる

広いフードコートなど、中高生が「安心して」過ごせる場所がある

イベントや買い物にワクワクときめき、楽しさが生まれる店舗

観光商業:森將軍塚古墳館・長野県立歴史館・アグリパークとの連携、

八幡地区の道の駅検討との差別化

小布施のハイウェイオアシスのイメージ

観光客に消費させる仕掛けが必要

八幡地区で検討中の道の駅との役割分担は必要

アグリパークと競合しない土産物等の販売

あんず、ぶどう、地元の新鮮な野菜など、商業と観光の連携に活かせる産品が豊富

DXによる観光案内とリアル(対面)の観光案内

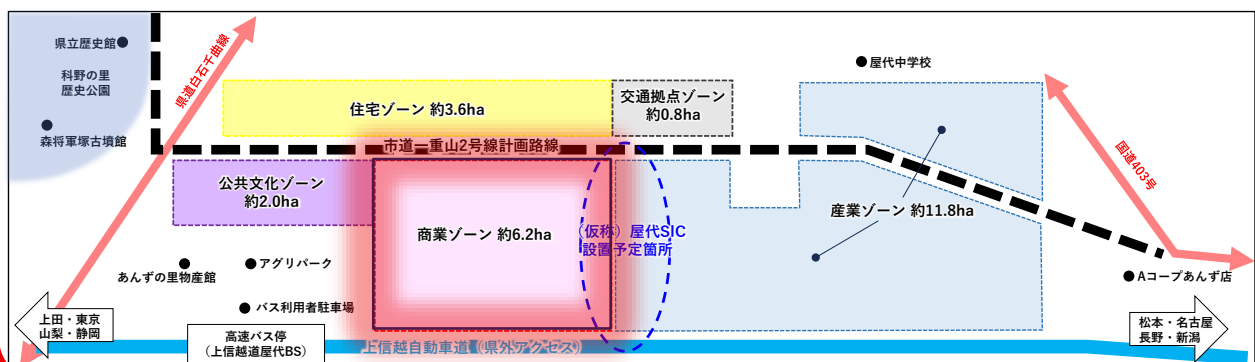
あんずの時期は限られるため、通年の集客が見込める森將軍塚古墳館・長野県立歴史館との連携が重要

災害時の防災拠点

大きな施設、駐車場を活かして、災害時の避難場所や物資供給施設ができる施設

科野の里歴史公園との連携

農業観光ゾーンとの連携



公共文化ゾーン

勉強など小中高生が集える場

小学生～大学生が安心して勉強したり、体を動かしたりできる施設

しなの鉄道の古い車両を展示し、その中で勉強やモバイルワークができる

飲食や会話ができる、安心して勉強できる中高生の居場所となる施設。使用用途に応じて、階ごとにエリア分け

屋代中学、高校が近隣にあるが、駅からのアクセスが課題

子どもたちが安全に安心して遊べる場

雨の日でも遊べる場所

ボードゲームで楽しんでいる

ハイハイする赤ちゃんゾーンが分かれている

幅広い世代(子供)が同じ空間

外の遊び場と屋内遊び場が繋がっている

アスレチック施設など、体を動かすことができる

大規模で良質な、屋内で子供を遊ばせられる施設は、お金を払ってでも行きたい

大人や家族が過ごせる場

子供を遊ばせつつ、親は飲食を楽しめるなど、遊び場と飲食エリアとの連続性がある施設

未就園児の親子さんが気軽に来て、交流できるような場所

買い物の間、子供達を遊ばせられる。買い物の後、家族で利用

お茶や食事を楽しめる(子育て支援センターは、コロナの名残で食事ができない)

アグリパーク(パン屋・いちご狩り)や、物産館(レストランはっぴい)と連携し、一体となった施設

千曲らしく、くつろげる空間

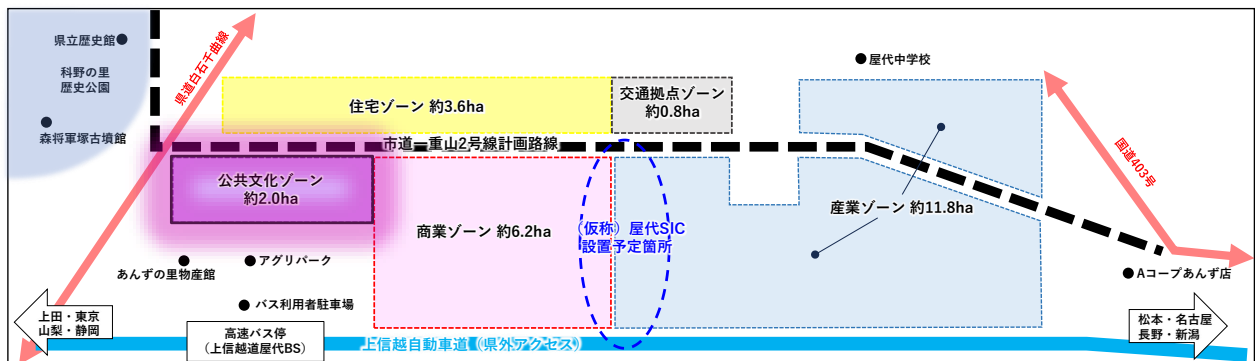
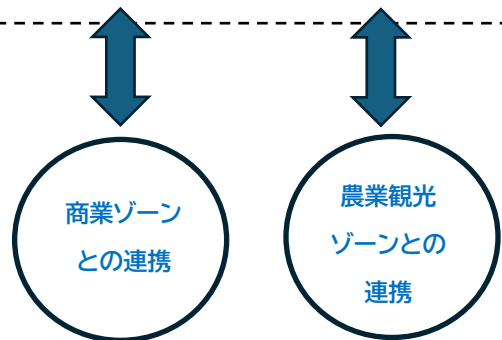
千曲市の文化財をイメージした遊具(月、古墳、果物など)

自然をイメージした内装、文化(茶・木・緑)

ゆっくりできる施設。インテリアもスペースも長野市や上田市にないような、おしゃれな感じ

地元の人のためでもありつつ、市外の人にも利用できる施設

拠点的な子どもや家族の居場所(ただし、地域の人々の普段使いも否定しない)



交通拠点ゾーン

バスツアーの窓口・快適な待合スペース

旅行会社のバスツアー参加者の利用促進として、バスツアーの窓口を設置。バスツアー待機時間に休憩ができる施設が良い

待ち時間用のカフェ・飲食をとれるスペース

屋代 SIC 周辺地区を起点に市内を回遊

外部から来た人がこの場所で乗り換え、屋代の市内を回遊。シェアカーやシェア自転車、公共交通機関を充実させて、市内の回遊の玄関となる

ここへ行けばどこにでも行ける。屋代駅へのアクセスの強化も必要

無料の駐車場

高速バスの乗り場(車を乗り捨てられる無料駐車場)

高速バスで東京(新宿)へ乗り換えなしで行けるメリットを活かす

観光含むサイクリングの拠点

屋代線跡のサイクリングロードとの連続性がある施設

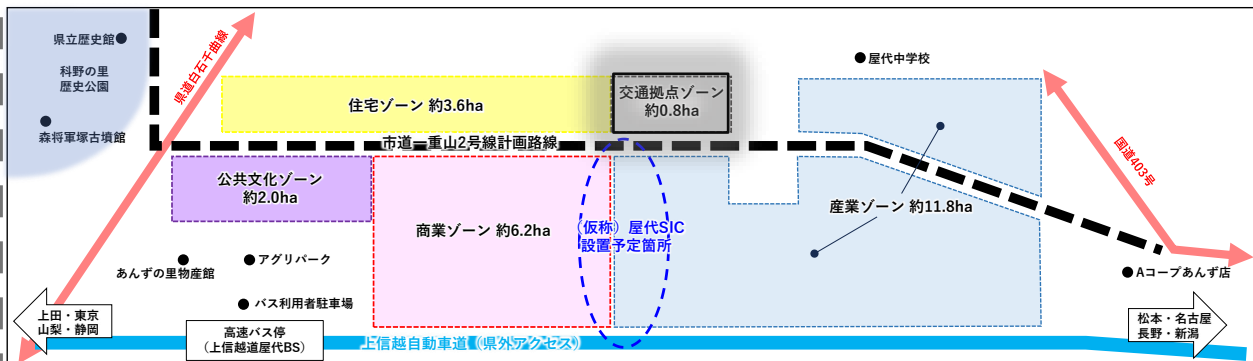
市内の観光拠点・
屋代駅との
連絡性

駐車場のイベント空間活用

広い駐車場を活かしたイベントの実施。
(クラシックカーの展示イベント等)

商業ゾーン
との連携

屋代線跡地活用との連携



産業ゾーン

平常時:物流拠点 → 災害時防災拠点

雨宮産業団地や八幡東工業団地で企業立地が進んでおり、物流拠点立地で高いポテンシャル

災害時の物資の集積、配送の役割を期待

大規模な駐車場は防災拠点に活用可能

流通のハブを生かすことで市外・県外の新鮮な産品を商業ゾーンで販売

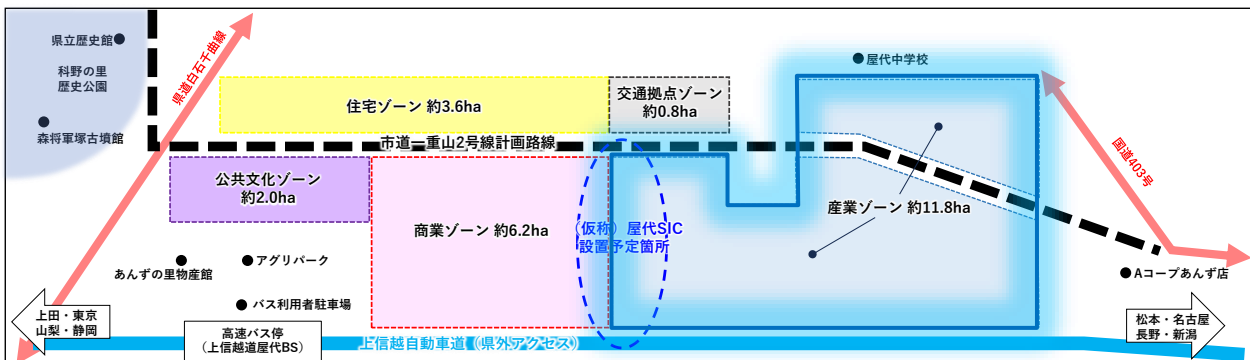
工場見学ができる企業の誘致

工場見学や直販施設がある食品工場等の誘致

そば、丸ナスのおやき、アウトレット商品の詰め放題等

歴史館や古墳館との見学つながりができると良い

商業ゾーンとの連携



3 関係者ヒアリング調査

屋代SIC周辺地区の整備方針の検討において、個別の対話を通じて、それぞれの立場からのまちづくりに対する意見を把握しました（2025年5・6月に実施）。

ヒアリング対象は、屋代SIC周辺地区の施設管理者や民間事業者、賑わい創出や地域活性化、子育て支援等のまちづくりへの意見等を有する団体・組織としました。

【屋代SIC周辺地区の施設管理者や民間事業者】

- ①（有）あんずの里アグリパーク
- ②長野県立歴史館
- ③森將軍塚古墳館

【賑わい創出や地域活性化、子育て支援等のまちづくりへの意見等を有する団体・組織】

- ①社会福祉法人有明福社会
- ②しなの鉄道株式会社
- ③（一社）信州千曲観光局
- ④屋代駅前通り商店街協同組合
- ⑤（一社）ちくま未来戦略機構

第4章 屋代SIC周辺地区の役割と将来像

1 屋代SIC周辺地区の将来像

屋代SIC周辺地区の7つの役割と、第三次千曲市総合計画の将来像である「人をてらす 人をはぐくむ 人がつながる 月の都～文化伝承創造都市・千曲～」につなげていくことを踏まえて、将来像を設定します。

【千曲市第三次総合計画の将来像】

人をてらす 人をはぐくむ 人がつながる 月の都 ～文化伝承創造都市・千曲～

【役割1】

市内の観光拠点への新たな人の流れを生み出す
ゲートウェイ

【役割2】

既存の工業団地や事業所との連携により市内の産業集積を強化するハブ

【役割3】

市民と来訪者がモノ・コトの消費を楽しめる千曲市のショーケース空間

歴史と自然に育まれた地域文化を受け継ぎ、
さらに磨きながら、新たな価値を育て、
人と地域が共に成長するまち

人と人が出会い、地域と地域が結び合うことで、未来を担う人と文化を創ります。
そして、賑わい、学び、働き、暮らし、安心を一つにかなえます。

【役割4】

「住む・働く・楽しむ」が融合する定住・移住の場

【役割5】

世代と地域をつなぎ、誰もが楽しく過ごせる市民共有のリビング

【役割6】

歴史環境と自然環境が融合した地域資源の体験と発信の拠点

【役割7】

災害時の避難・救援・物資集配の活動拠点

2 屋代SIC周辺地区の役割

基礎調査のまとめ及び団体・市民等の意見把握などを基に、屋代SIC周辺地区の役割を7つに整理します。

積極的戦略① 強みを活かして機会を創出する

【強み】を活かして

- ・広域高速交通基盤による地の利、交通の要衝
- ・温泉、歴史的町並み、古墳、棚田景観、果樹等の多様な観光資源と戸倉上山田地区の稼ぐ力



【機会】を創出する

- ・屋代SIC整備による高速道路アクセス向上
- ・観光入込客数の増加ポテンシャル向上
- ・訪日客数は増加傾向、地方部はリピーター化



【関係者ヒアリング・市民ワークショップ】

- ・屋代SICと戸倉上山田温泉街の連携強化による観光消費の拡大
- ・外国人の誘客は、伸びしろが大と想定され、今後のターゲットは若年層と外国人
- ・屋代SICまでは車でアクセスし、多様な二次交通手段で市内を周遊する仕組みが必要
- ・屋代SIC周辺のまちづくりを契機に市内の観光拠点等を相互に紹介しあう等の仕組みが必要



【役割1】市内の観光拠点への新たな人の流れを生み出すゲートウェイ

【役割イメージ】市外から千曲市を訪れる人々が立ち寄り“ゲートウェイ（玄関口）”として、本地区が観光情報や地域産品、多言語サービスなど交流の結節点となることで、**市内各地の観光拠点・スポットへと周遊を誘導し、滞在時間や消費の拡大**につなげる

積極的戦略② 強みを活かして機会を創出する

【強み】を活かして

- ・製造品出荷額等は2,000億円台で推移
- ・産業別の付加価値額は製造業が卓越
- ・製造業従業者は増加傾向
- ・果実の生産が盛んで農業産出額は増加傾向



【機会】を創出する

- ・生産製造拠点の国内回帰が進展
- ・工場立地は高速ICとの近接性が重視される傾向
- ・インバウンド増加に伴う食品系企業の活性化
- ・果樹など農産物の出荷の利便性向上



【関係者ヒアリング・市民ワークショップ】

- ・雨宮産業団地や八幡東工業団地で企業立地が進んでおり、物流拠点立地で高いポテンシャル
- ・工場見学やアウトレット販売ができる食品系企業は、観光や商業との産業間連携が可能
- ・若い人の地元就業や東京等に転出した人のUターン等のための雇用の場の確保が重要



【役割2】既存の工業団地や事業所との連携により市内の産業集積を強化するハブ

【役割イメージ】製造業や物流業等の産業立地ニーズにタイムリーに対応できるとともに、立地企業と市内の製造事業所間の連携によるイノベーションや製品の付加価値向上、物流企業の立地によるサプライチェーンの効率化や農産物を含む市外への販路拡大等を通じて、**製造業出荷額等や農産物の販売額等の拡大と雇用の選択肢の多様化**につなげる

防御戦略①

強みを活かして脅威を最小化する

【強み】を活かして

- ・商圏の自立性と商品販売額は安定的推移
- ・果実の生産が盛んで農業産出額が増加傾向
- ・消費力のある若年・子育て世帯の転入



【脅威】を最小化する

- ・長野市及び上田市の大商圏下での競争環境
- ・市外における大規模商業施設の開業
- ・観光需要は流動的な側面（足下需要が重要）



【関係者ヒアリング・市民ワークショップ】

- ・あんず、ぶどう、地元の新鮮な野菜など、商業と観光の連携に活かせる産品が豊富
- ・屋代SIC周辺の立地特性（流通のハブ）を生かすことで市外・県外の新鮮な産品を購入可能
- ・買い物しながら、家族が一日過ごせたり、多世代が交流できたりする場所に対するニーズは高い
- ・起業意欲ある若者等が千曲市産を販売したり、飲食を提供したりできるチャレンジの場づくり



【役割3】市民と来訪者がモノ・コトの消費を楽しめる千曲市のショーケース空間

【役割イメージ】地元産品を活かした商品購入や食文化体験、イベントや触れ合いといった「コト」体験を市民が一体的に楽しめる場を、市民有志もプレイヤーとなって創出することで、千曲市の多彩な魅力・価値が詰まった「ショーケース」となり、**市民の暮らしの豊かさと観光客等の来訪者の満足度の向上**につなげる

改善戦略

弱みを補強して機会を創出する

【弱み】を補強して

- ・長野市からの転入超過数が縮小傾向
- ・夫婦と子供から成る世帯は2005年から減少傾向
- ・20代の有配偶率が低く、出生数が少ない



【機会】を創出する

- ・長野県は、移住希望地ランキングで上位
- ・長野市や上田市と比べて地価が安価
- ・「こんな家に住みたい」という希望がかなえやすい



【関係者ヒアリング・市民ワークショップ】

- ・住宅だけでなく、公園やコミュニティでシェアできる居場所、空間（菜園等）があると良い
- ・屋代SIC周辺の商業施設で購入した食材を使って、BBQや料理を楽しめる施設があると良い
- ・庭や菜園がある住宅へのニーズが高く、良好な街並み景観やゆとりある住環境の形成にも寄与
- ・屋代SIC周辺地区に住み、働くといった職住近接の暮らしが実現



【役割4】「住む・働く・楽しむ」が融合する定住・移住の場

【役割イメージ】自然的なゆとりや潤いと、都市的な利便性を兼ね備えるとともに、働く場所と住まいが身近にあることで、家族で過ごす時間をもつことができる暮らしを提供することや、温泉のある暮らしや農ある暮らしなど千曲ならではの暮らしの価値を提供することで、**若年層が「住み続けたいまち」と市外の若者・ファミリーが「住んでみたい」と思える「選ばれる街」**となることにつなげる。

回避戦略

弱みを補強して脅威を最小化する

【弱み】を補強して

- ・長野市からの転入超過数が縮小傾向
- ・夫婦と子供から成る世帯は2005年から減少傾向
- ・20代の有配偶率が低く、出生数が少ない



【脅威】を最小化する

- ・人口は少子高齢化を背景として減少傾向が継続
- ・市外における大規模商業施設の開業
- ・子育て環境について不満割合が増加



【関係者ヒアリング・市民ワークショップ】

- ・市内外のファミリー層や中高生にとって居場所となる場が不足
- ・屋内で子供を遊ばせることができるスペースが不足
- ・買い物をして、ついでに家族で遊ぶことができるなど、連続性のある使い方のできる街になると良い
- ・地域の人の普段づかいだけでなく、市全体の広域的に利用される施設が良い



【役割5】世代と地域をつなぎ、誰もが楽しく過ごせる市民共有のリビング

【役割イメージ】市全体を利用圏域として、ファミリー層や中高生の居場所となるとともに、屋内外の子どもの遊びや学びの場となる拠点的な施設を提供することで、世代や世帯、地域を超えた交流が生まれ、**市全体の子育て環境や暮らしの価値の向上**につなげる

積極的戦略③

強みを活かして機会を創出する

【強み】を活かして

- ・歴史と自然の魅力を兼ね備えた森將軍塚古墳、科野の里歴史公園、長野県立歴史館
- ・農業と自然を楽しむことができる「あんずの里アグリパーク」や「あんずの里物産館」



【機会】を創出する

- ・屋代 SIC 整備による高速道路アクセス向上
- ・観光入込客数の増加ポテンシャル向上
- ・訪日客数は増加傾向、地方部はピーター化



【関係者ヒアリング・市民ワークショップ】

- ・科野の里は、歴史と自然の両方を学び、触れることができる場所
- ・長野県立歴史館、森將軍塚古墳館、雨宮の渡し、須須岐水神社など文化的要素を含んだ開発をすべき
- ・ビジョンは、「あるものを生かす」視点で策定すべき
- ・森將軍塚古墳館～長野県立歴史館～屋代駅を楽しめる歴史と自然の散策ルートの形成



【役割6】歴史・自然・農業が融合した地域資源の体験と発信の拠点

【役割イメージ】歴史・自然・農業が融合する地域資源を活かしながら、千曲市の魅力を体験し、伝える拠点となるとともに、地域景観の保全・創出や自然・農業と触れ合う機会の確保とあわせて、省エネルギーや緑化の推進など環境にやさしい空間形成を図り、**持続可能な地域づくりの実現**につなげる

防御戦略②

強みを活かして脅威を最小化する

【強み】を活かして

- ・屋代SIC整備による高速道路アクセス向上
- ・計画降雨規模において、屋代SIC地区の浸水深は更埴IC周辺等より相対的に浅い想定



【脅威】を最小化する

- ・千曲川の氾濫リスク
- ・千曲川右岸は計画規模洪水時に使用できない指定緊急避難場所が多い



【関係者ヒアリング・市民ワークショップ】

- ・屋代SIC周辺地区には災害時に地域の防災に資する機能を期待
- ・大規模な駐車場を確保できる土地があり、災害時は防災活動拠点として活用可能
- ・平常時の物流拠点は、災害時に物資の集積や配送の拠点に転用可能
- ・宿泊施設や医療施設もあれば、防災拠点としての機能が充実



【役割7】災害時の避難・救援・物資集配送の活動拠点

【役割イメージ】屋代SIC周辺という交通利便性の高い立地であることにより、広域からの支援物資や避難者の集積・分配が迅速かつ効率的に行えるとともに、物流や商業等の駐車スペースやファミリー層や中高生の居場所となる施設を、**災害時に避難・救援・物資集配送の活動拠点として活用することで、地域の強靱化**につなげる

第5章 屋代SIC周辺地区の整備方針

1 土地利用の方針

屋代SIC周辺地区のまちづくりの経緯と役割を踏まえ、6つのゾーンを設定し、土地利用の方針を定めます。

ゾーン	土地利用方針	役割 1	役割 2	役割 3	役割 4	役割 5	役割 6	役割 7
商業	<ul style="list-style-type: none"> 屋代SICの交通利便性を生かすとともに、農業観光ゾーンとの連携を図るためSICの南側に配置 屋代SICの利便性を生かし、観光交流の拠点とするとともに、日常生活における利便性の向上と賑わいの創出に資する集客・交流施設の立地を誘導 地域の特産品や新鮮な食材の販売・飲食、ネイバーフッド型商業機能の核として、観光案内等の情報発信や休憩、レクリエーション機能、チャレンジショップ等のインキュベーション機能を備えた施設の整備・運営により、観光客などを含む利用者が気軽に立ち寄れるゾーンとして形成 	●	●	●	●	●	●	●
公共文化	<ul style="list-style-type: none"> 商業ゾーン、農業観光ゾーン、森将軍塚古墳館・長野県立歴史館といった文化的な機能の連続性を確保するため、地区の南端に配置 子どもから大人まで世代を超えて集い、学び、遊び、交流できる、市内の拠点的なサードプレイス（居場所）として整備するとともに、公民連携による運営を通じて、市全体の子育て支援や暮らしの価値向上につながる施設の立地を誘導 屋内外の遊び・学びの場や飲食サービスを備え、地域住民や来訪者が気軽に集える空間として形成するとともに、ワークショップや体験型イベント、地域の行事の開催に対応できるゾーンとして形成 近隣にできる大学との産官学連携の形成 			●	●	●	●	●
住宅	<ul style="list-style-type: none"> 既存の低層住宅地との連続性を確保するため、地区の西側に配置 若年層の定住やUIターン希望者の住まいとして、商業ゾーンや産業ゾーン、交通拠点ゾーンに近接していることで、生活・通勤利便性が高く、自然環境や近隣の農業景観と調和のとれた快適な住宅・住環境の提供につながる施設の立地を誘導 居住者のライフスタイルや働き方に柔軟に対応できるよう、街区内に公園緑地や広場、シェア菜園など共用交流スペースなどを備えることにより、多様なライフスタイルと地域との関わりを生み出すゾーンとして形成 				●			

ゾーン	土地利用方針	役割 1	役割 2	役割 3	役割 4	役割 5	役割 6	役割 7
交通拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・屋代SICとの連絡性を確保するため、SICへのアクセス道路の延長線上に配置 ・バスや自家用車など多様な交通機関によるアクセスと円滑な乗り継ぎを支える施設を整備するとともに、高速バス利用者や地域住民、観光客など幅広い利用者に対応する休憩・交流施設の立地を誘導 ・パーク＆ライド駐車場や送迎専用停車スペース、路線バスや自転車などのシェアサービスとの接続を確保するとともに、トイレ・授乳室、学習・モバイルワーク対応の快適空間、軽食・土産物販売、イベント・展示スペースを備え、交通利用者の滞在・交流を促進するゾーンとして形成 	●		●		●		●
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・屋代SICの交通利便性を生かすとともに、屋代工業団地及び兩宮産業団地との機能連携を考慮し、屋代SIC北側に配置 ・若年層の定住やUIターン希望者の雇用の場となる産業施設を中心としつつ、市内の産業活動や地域製品の販路拡大に資する物流施設の立地を誘導 ・先進的な技術・ものづくりの導入や、環境に配慮した持続可能な事業活動の推進、地域社会との交流や教育・見学機会の提供を通じて、産業振興と地域活性化を両立したゾーンとして形成 		●	●	●		●	●
農業観光	<ul style="list-style-type: none"> ・あんずの里物産館や農業観光施設は、本市を代表する「あんずの里」の玄関口として、隣接する商業ゾーンや公共文化ゾーンと連携しながら、観光客や地域住民が集い、交流し、地域の魅力を体感できる場としての機能を充実 ・農産物や加工品の販売、あんずの農園団体による農業体験などの機会を提供など、農業をテーマとした体験観光プログラムの充実を図りながら、周辺の農業景観や自然環境と調和したゾーンとして形成 ・森将軍塚古墳館、長野県立歴史館と調和した緑を感じることができる空間を形成 ・近隣にできる大学との産官学連携の形成 	●		●		●	●	

■土地利用方針図

【商業ゾーンのイメージ】

- ・市内の新鮮な野菜・特産品、隣接県の新鮮な水産・畜産物、市内観光と連携できる商品（スポーツ、アウトドア等）を販売するネイバーフッド型のショッピングセンター
- ・地域の特産品や食材を利用した飲食店
- ・屋外交流空間（オープンスペース、イベント広場）
- ・市内での新規開業者を育成するチャレンジショップ
- ・市内の観光拠点や名所の観光案内、情報発信機能



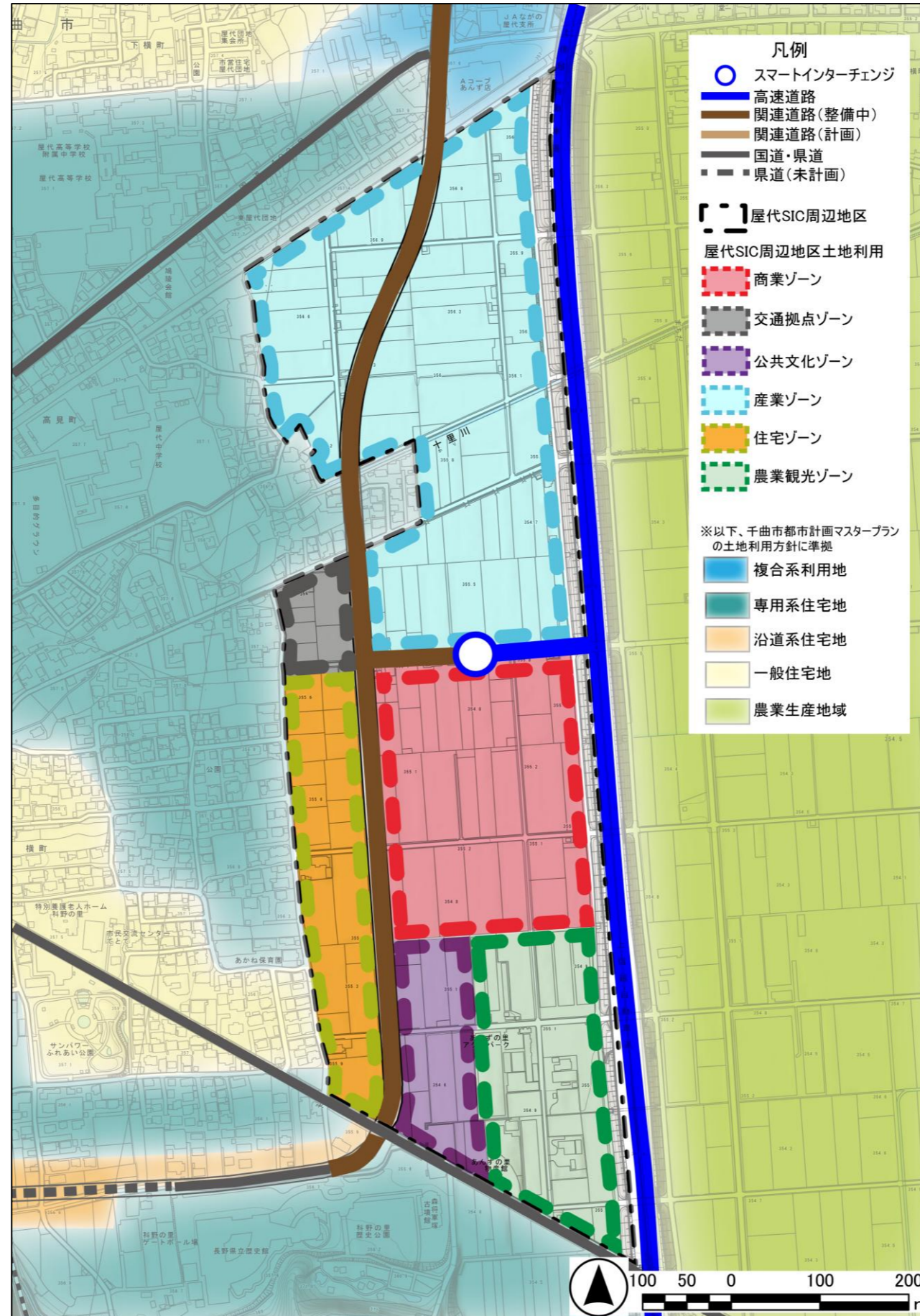
【交通拠点ゾーンのイメージ】

- ・高速バスの乗降・待合機能
- ・アクセス・乗り継ぎ機能（パーク&ライド駐車場、送迎者の停車スペース、路線バスなど公共交通との乗継、自転車などシェアサービス、周辺施設利用者の駐車など）
- ・休憩・交流機能（トイレ・授乳室、学習・モバイルワークにも使える空間、軽食・土産物販売、イベント・展示空間など）



【住宅ゾーンのイメージ】

- ・開発エリアで働く人の職住近接ニーズに対応
- ・UIターン者の移住・定住者が住みたくする住宅
- ・庭や菜園などゆとりがある敷地
- ・シェア菜園・広場、公園などのコモンスペース
- ・沿道は生活に必要なサービス施設を誘導（医療等）



【産業ゾーンのイメージ】

- ・先端的な製造業の生産や研究施設や物流施設など、地元若者の定住やUターンを支える雇用の場
- ・施設見学やアウトレット販売を行う食品系企業の立地
- ・地域交流スペースなどの開放施設を備えた地域共生型の企業の立地



【公共文化ゾーンのイメージ】

- ・小中高生が勉強や会話で溜まれる居心地よいスペース
- ・全天候型・通年で利用でき、子育て世代の定番のお出かけスポットとなる屋内遊び場
- ・歴史体験ゾーン（森將軍塚古墳館・県立歴史館）とも学び・体験の面で連携
- ・子育て世代の親が交流できたり、商業ゾーンでの買い物の後にゆっくりできる飲食・休憩スペース
- ・自然や木質感のある「ぬくもり」の感じられる施設



【農業観光ゾーンのイメージ】

- ・買い物のあとで、飲食や農業体験を家族で楽しむなど、地区内の回遊を誘導
- ・商業ゾーンや公共文化ゾーンと連携して農業体験や農業学習等の機会を提供
- ・屋代SIC周辺地区と森將軍塚古墳館、長野県立歴史館をつなぐ動線



2 交通対策の方針

屋代SIC周辺地区では、広域的な交通結節点としての利便性を最大限に活かしつつ、周辺道路の整備や交通流の適正化、公共交通機関との連携強化や歩行者・自転車等の利用環境の充実を通じて、多様な移動手段に対応するとともに、脱炭素など環境負荷の抑制にも配慮した交通対策を推進します。

(1) 屋代SIC関連道路等の整備

- ・屋代SICのアクセス道路となる市道一重山2号線の整備（国道403号の「工業団地南」交差点から県道白石千曲線との交差点（県立歴史館付近）：延長1.4km、幅員20m）
- ・市道返町東西線の整備（SIC料金徴収施設～市道一重山2号線間）
- ・屋代SICの整備に伴う側道の新設・付け替え（商業ゾーンから迂回路へアクセスする道路として整備）
- ・各ゾーンの開発と併せた必要な道路の整備・誘導
- ・上信越道屋代高速バス停の移設先と複数の交通機関が乗り入れる交通拠点の整備



(2) 公共交通機関による屋代SIC周辺地区と市内他地区との連絡性の充実

- ・屋代SIC周辺地区の施設立地及び関連道路の整備の進捗と併せたバスアクセスの充実（循環バス）
- ・高速バスと鉄道の連携の仕組みづくり（ダイヤ連携、シャトルバス、ICカード決済等）
- ・屋代SICの整備と併せた市内観光拠点と連絡する観光便の充実
- ・産業ゾーンの企業立地と併せた通勤バスなど交通負荷・環境負荷の抑制に向けた取組の誘導



(3) 歩行者・自転車等の利用環境の整備

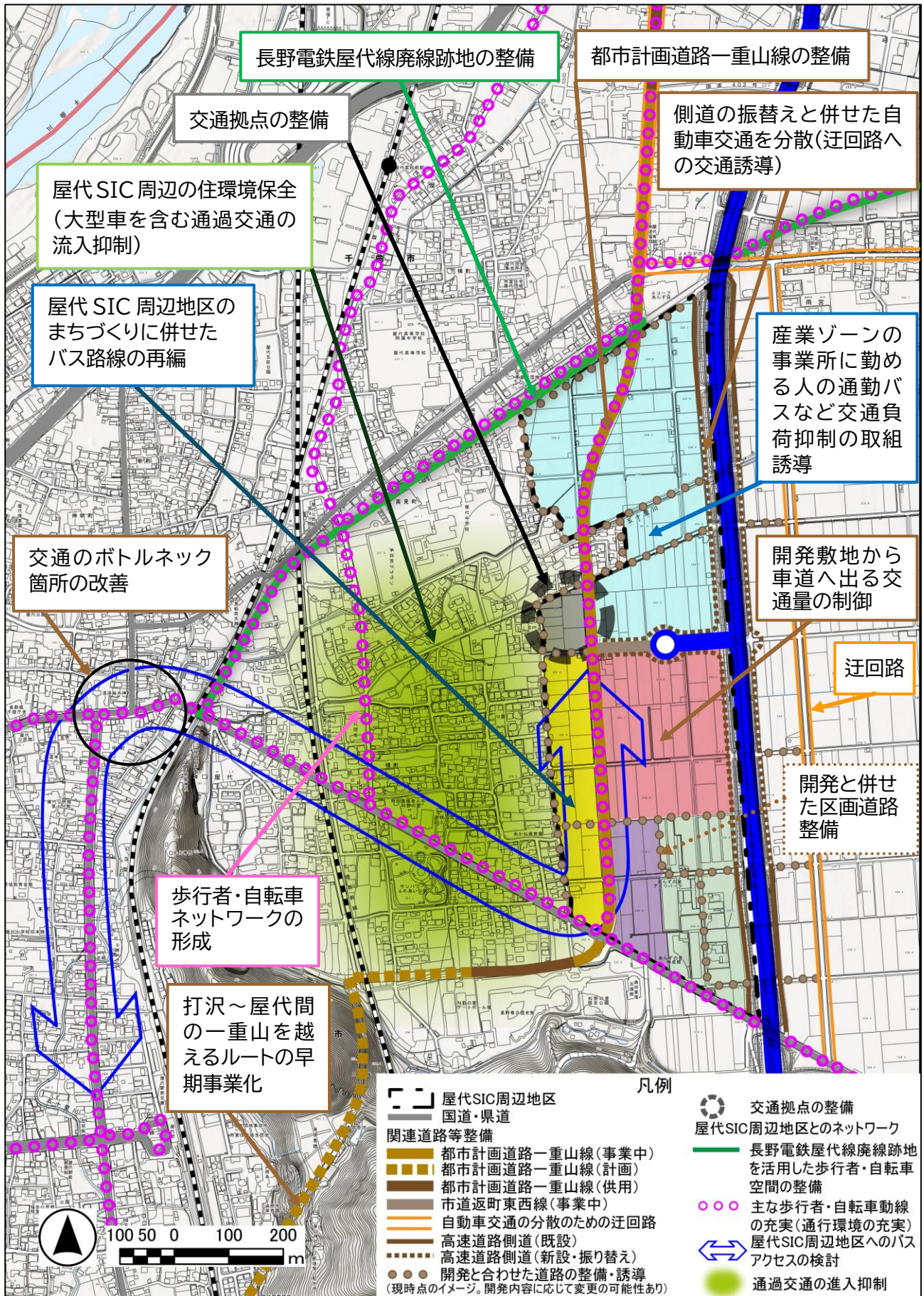
- ・長野電鉄屋代線廃線跡地を活用した歩行者・自転車ネットワークの形成
- ・既存道路の歩道や自転車ネットワーク路線、長野電鉄屋代線廃線跡地、市道一重山2号線を活用した主要な歩行者・自転車動線の充実
- ・屋代SIC周辺地区のまちづくりと併せたシェアサイクルの仕組みの拡充検討
- ・新技術の社会実装と併せたパーソルモビリティやスローモビリティの導入検討



(4) 開発に伴う交通流の適正化

- ・商業施設アクセスや通勤交通、大型車等の物流車両の分散を図るための都市計画道路一重山線の整備促進（特に打沢～屋代間の一重山を越えるルートの早期事業化）
- ・交通のボトルネックとなるおそれのある横町交差点での信号間隔の調整や看板等による迂回路の誘導等のソフト対策、同交差点の右折車線の整備や周辺道路の拡幅等のハード対策の検討
- ・一重山2号線に対する想定される渋滞対策（右折レーンの設置、左折入庫が原則等）
- ・交通解析等の定量的な分析に基づき、関係機関と事前対策を協議するための体制構築
- ・開発敷地内での滞留レーンや空間の確保など、開発敷地から車道へ出る交通量の制御
- ・住宅ゾーンの幹線道路へ直接出入抑制の取組
- ・住宅専用系地区への通過交通の進入抑制（大型車通行止めや時間帯制限等の交通規制等）
- ・通学路や歩行者、自転車の主要な動線となっている生活道路での歩道整備や速度規制
- ・開発後の交通量等の定期的なモニタリングと問題がある場合は対策を検討する仕組みづくり

■交通対策の方針図



3 緑と景観形成の方針

屋代SIC周辺地区では、地域のシンボリックな自然資源である一重山や屋代田んぼなどと都市機能の調和に配慮しながら、市民や来訪者が心地よさを感じられる空間の創出を基本に、緑を基調とする骨格的な景観のシンボル空間の形成やゾーンの特性を踏まえた公園・オープンスペースの配置、眺望景観の確保、建築物の形態・意匠などについて一体的な誘導を図ります。

緑のシンボル軸のイメージ

(1) 緑のシンボル軸の形成

- ・商業ゾーン及び公共文化ゾーン、産業ゾーンでは、一重山2号線沿道の敷地において、緩衝となる緑地を配置することにより、街路樹の緑とともに沿道景観に潤いと統一感をもたらす緑のシンボル軸を形成
- ・中長期的には、地区外の「緑の街路のネットワーク」と一体となって、市内の水と緑のネットワークを形成するとともに、地域住民や事業者等の参画による維持管理の仕組みを構築
- ・森將軍塚古墳館・長野県立歴史館は、「自然と歴史を体験できる緑の拠点」としての役割を持っており、緑のシンボル軸は森將軍塚古墳館・長野県立歴史館への導入路としても形成（道路照明デザインやインターロッキング等景観の良い舗装の検討、埴輪のようなモニュメント配置等による沿道の空間演出なども検討）



科野の里歴史公園



(2) 緑地・オープンスペース

- ・商業ゾーン及び公共文化ゾーン、産業ゾーン、交通拠点ゾーンの外周では植栽により、うるおいのある空間を形成
- ・住宅ゾーンでは、生け垣や庭木など緑豊かな住環境とし、各住戸の緑が連続した街並みを形成するとともに、小公園や共同菜園など緑を感じる共有空間を創出
- ・公共文化ゾーンでは、子どもの遊び場となるとともに、交流やにぎわいを創出する広場空間を整備
- ・交通拠点ゾーン及び産業ゾーンでは、既存の住宅地と接する空間に、緩衝となる公園や緑地を整備
- ・地区外緑の街路ネットワークや旧街道沿いの歴史を感じる緑のネットワークを通じて、周辺の緑の拠点と連携し、緑と歴史文化を感じることができる都市環境を創出

緑豊かな住宅地のイメージ



(3) 地区を特徴づける眺望景観への配慮

- ・各ゾーンの建築物の高さ等の規模や配置、意匠・形態、色彩、緑地の配置は、主要な眺望点である森將軍塚古墳や上信越自動車道を走行する自動車からの見え方に配慮するとともに、周辺の低層住宅の街並みや屋代田んぼなどと調和を誘導
- ・屋代SIC周辺地区から地域のランドマークである森將軍塚古墳の眺望に対しては、主要な視線の抜けを意識した建築物の高さ等の規模や配置、意匠・形態、色彩、緑地の配置を誘導
- ・高速道路を走る自動車からの見え方については、建築物・緑地・広告物等の調和を図ることにより、市の玄関口にふさわしい良好な景観の形成を誘導

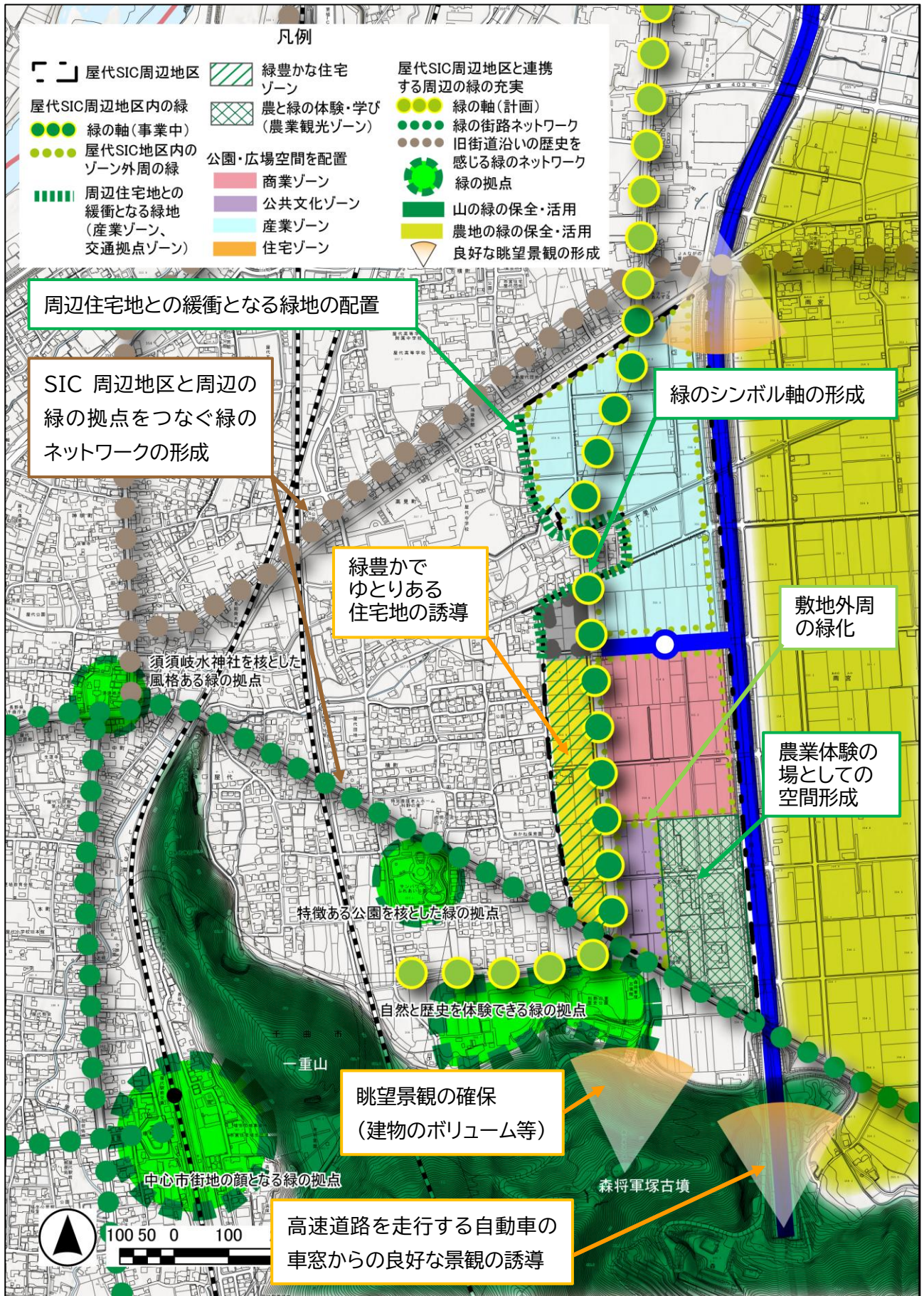
森將軍塚古墳からの眺望(現状)



(4) 「千曲市美しいまちづくり景観条例」に基づく建築物の景観誘導

- ・道路境界からの壁面の後退によるゆとりある空間の確保
- ・敷地内のオープンスペースとバランスのとれた建築物の規模・配置
- ・背景となる一重山等の緑や隣接する「科野の里歴史公園」との調和
- ・建築物等の屋根形状・外壁デザイン・色彩などは、周辺の山並みや農地景観と調和

■緑と景観形成の方針図



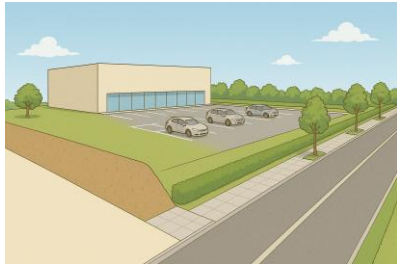
4 防災対策の方針

屋代SIC周辺地区では、新しいまちづくりを契機として、浸水など地域のリスクを踏まえた防災性の向上を図ることを基本に、水害リスクへの備えや、広域的な交通結節点としての特性を生かした防災機能の整備、来訪者や地区外の市民も含めた新たな避難・一時滞在のための空間の提供を一体的に誘導します。

(1) 水害リスクへの対応

- ・開発地全体を盛土で嵩上げし、浸水被害を軽減
- ・雨水調節池の整備により、局地的な豪雨時にも一時的に雨水を貯留し、流出を抑制
- ・建築物における電源設備等の耐水・浸水対策による停電や機能停止の防止を誘導

地盤の嵩上げイメージ



雨水調整池の例(雨宮産業団地)



(2) 交通結節点としての特性を生かした防災機能の整備

- ・屋代SIC周辺を災害時の物資集積・輸送拠点として位置付け、救援物資搬入と配送の環境及び体制を整備
- ・大規模駐車場は、物資集積・配布拠点、緊急車両待機スペース等として活用するための運用ルールを整備
- ・都市計画道路一重山線の整備を通じて緊急輸送道路の代替性を強化

広域的な防災拠点の活動イメージ(活動機関や災害車両の活動:国土交通省「防災道の駅」(令和7年))



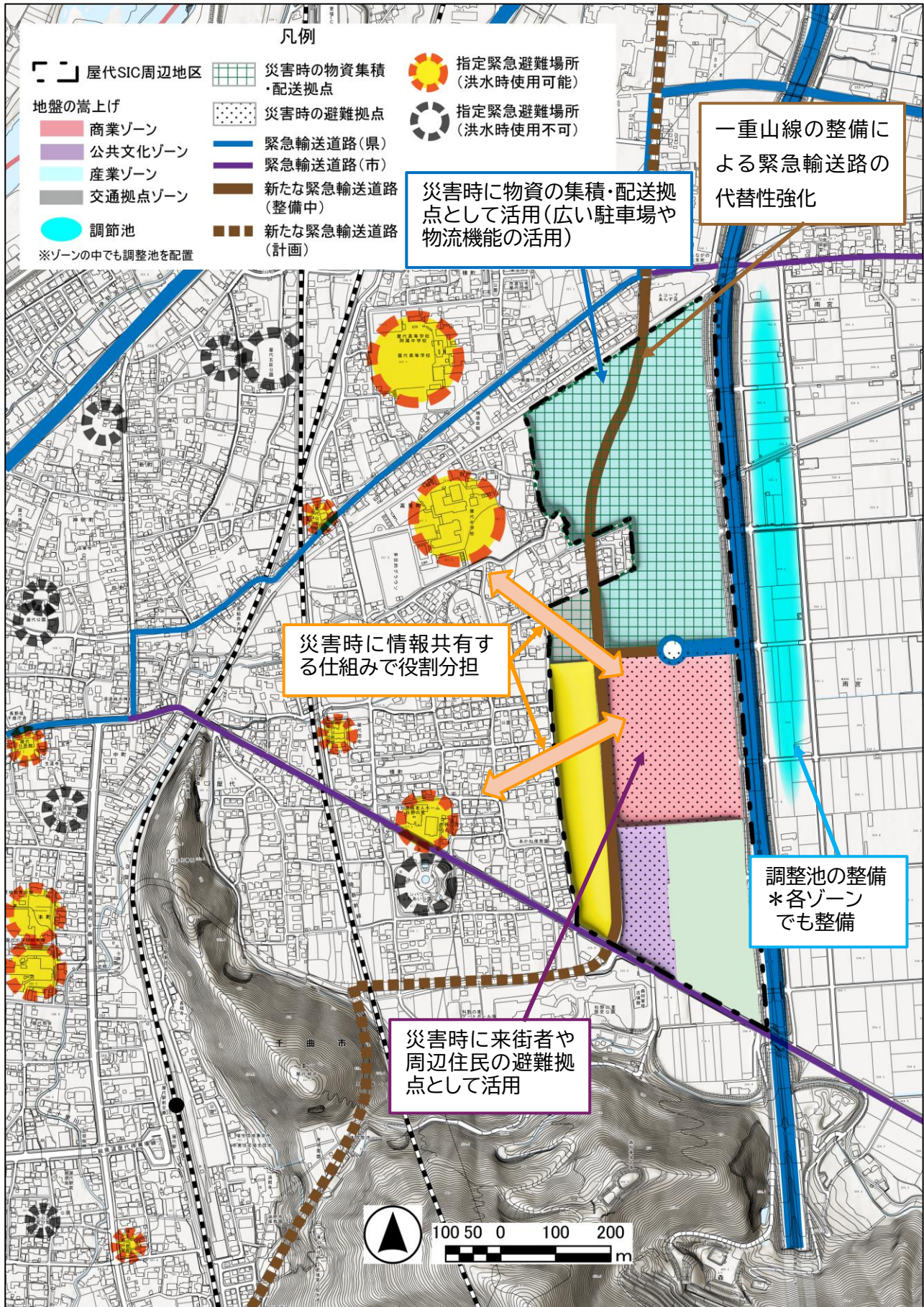
(3) 避難者の受け入れ環境の整備

- ・太陽光発電・蓄電システムなど、地球温暖化対策と両立した災害時の非常用電源の確保
- ・商業ゾーン、公共文化ゾーン等の広域的な避難拠点として位置付け、水・食料など避難者の滞在環境を確保
- ・平常時の案内システムは、災害情報や交通情報等の提供システムとして活用
- ・防災関係機関や既存の避難場所と連携し、災害時の避難者や物資輸送を円滑に行える体制を確保

地域の避難者の一時滞在イメージ(国土交通省)



■防災対策の方針図



第6章 まちづくりの効果

1 まちづくりの効果の考え方

屋代SIC周辺地区のまちづくりの効果は、下表に示す3つの内容で試算します。

なお、現時点において、SIC周辺地区における各ゾーンの施設計画は確定していないことから、ここでの試算は、一定の仮定に基づくことに留意する必要があります。

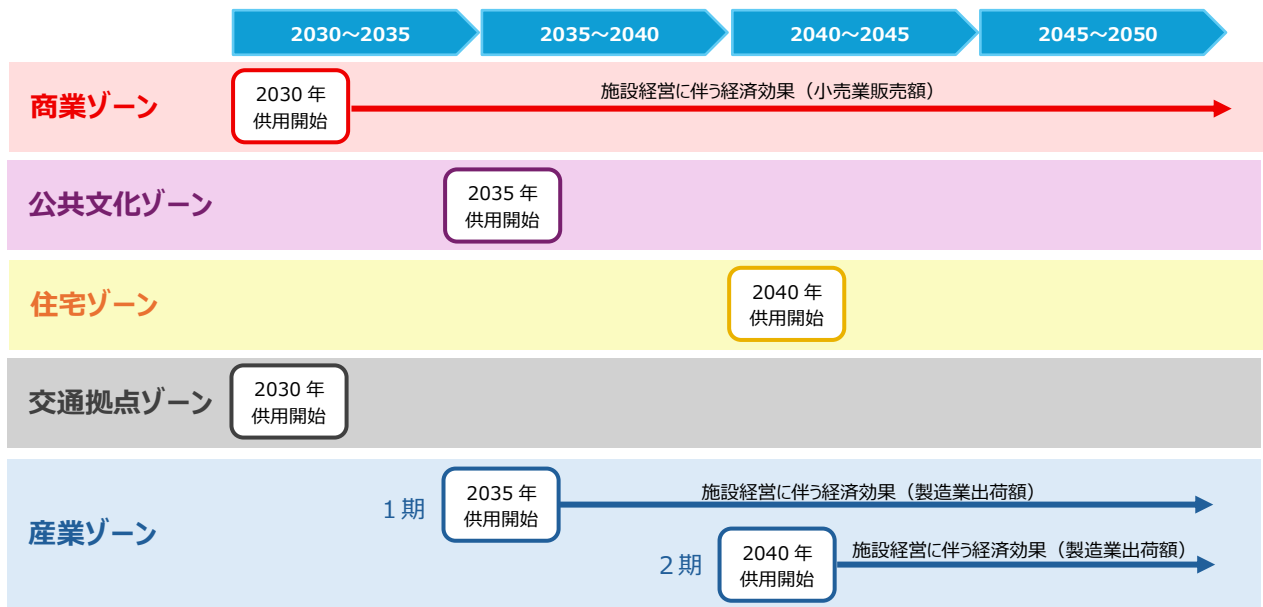
■まちづくりの効果の内容

項目	内容
建設投資に伴う経済波及効果	建設工事に伴う資材の購入や働く人の増加などにより、地域での生産・雇用・消費が広がることで、一時的に地域経済を拡大する効果
商業施設及び産業施設の運営によって新たに発生する経済効果	整備された施設が営業・稼働し続けることで中長期的に地域にもたらされる経済効果（商業施設の販売額、産業施設の出荷額等）
商業施設及び産業施設の運営によって新たに発生する雇用創出効果	整備された施設が営業・稼働し続けることで、商業及び産業施設で新たに発生する雇用機会

2 まちづくりのスケジュール

各ゾーンの供用スケジュールを以下のとおり仮定し、ゾーンごとの経済波及効果、経済効果を試算します。なお、本スケジュールは試算を行うための仮定であり、実際の供用開始時期を確定するものではありません。

■各ゾーンの供用スケジュール（仮定）



※経済波及効果の発生年は、供用開始と同じ年と仮定する

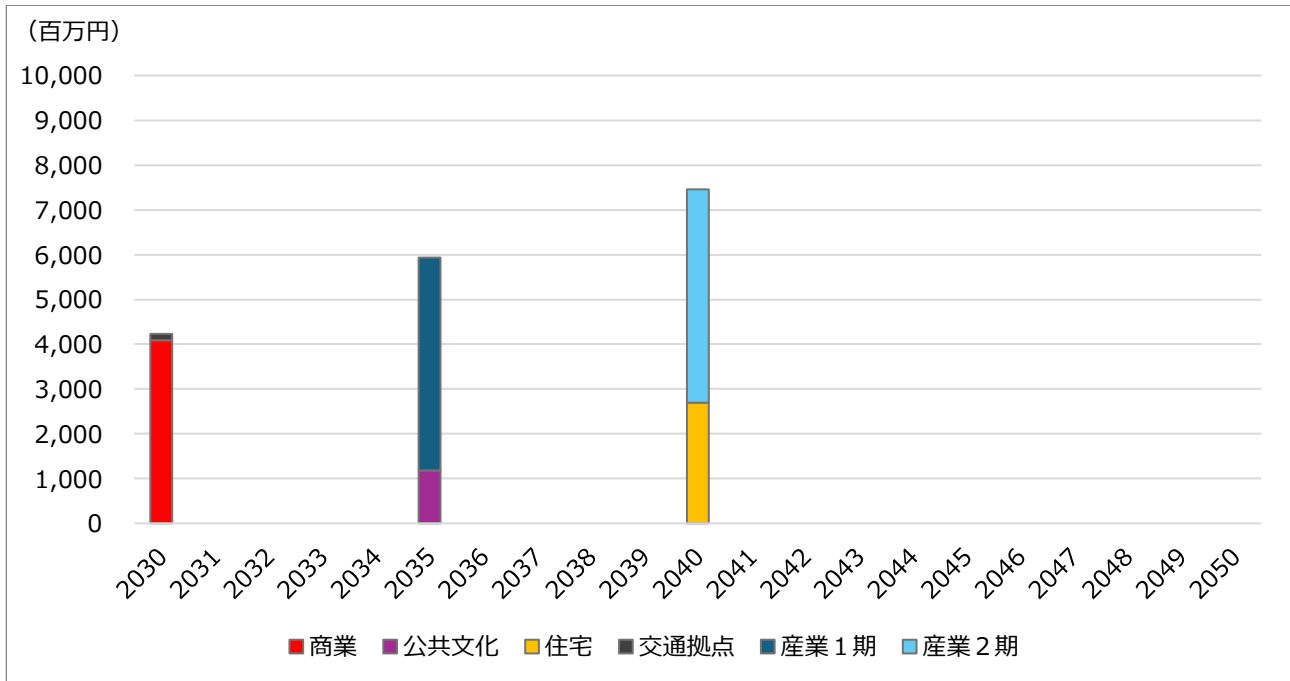
項目	仮定の内容	計算上の時間
商業ゾーン	2030年度の供用開始、経済波及効果も2030年、施設運営に伴う経済効果も2030年から毎年発生すると仮定	0年目
公共文化ゾーン	2035年度の供用開始、経済波及効果も2035年と仮定	5年目
住宅ゾーン	2040年度の供用開始、経済波及効果も2040年と仮定	10年目
交通拠点ゾーン	2030年度の供用開始、経済波及効果も2030年と仮定	0年目
産業ゾーン	面積が広いことから、2期に分け（面積は等分）、1期は2035年、2期は2040年の供用開始、経済波及効果も1期は2035年、2期は2040年、施設運営に伴う経済効果も1期は2035年から、2期は2040年から毎年発生すると仮定	1期：5年目 2期：10年目

3 まちづくりの効果の試算結果

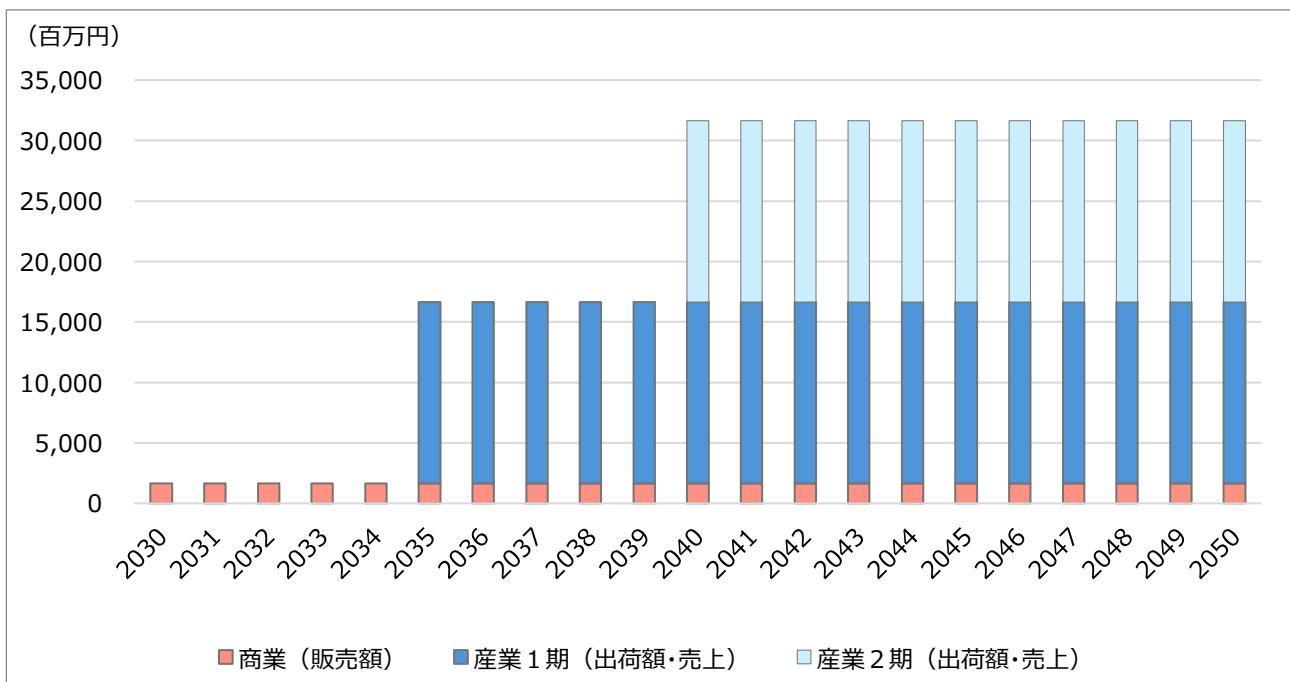
(1) 経済波及効果及び経済効果

供用開始からの20年間で発生する経済波及効果は約176億円、経済効果は約4,398億円と試算され、経済波及効果と経済効果の合計は、約4,574億円と試算されます。千曲市のコスト負担額を交通拠点ゾーンの整備費用とした場合、経済波及効果と経済効果の合計がコストを上回ります。

■経済波及効果の推移



■経済効果の推移



■経済波及効果と経済効果の試算結果(実数)

(単位：百万円)

		商業		公共文 化	住宅	交通 拠点	産業				経済 波及 効果	経済効果	効果計
		経済波 及効果	販売額	経済波 及効果	経済波 及効果	経済波 及効果	1期		2期				
							経済波 及効果	出荷額・ 売上	経済波 及効果	出荷額・ 売上			
2030年	0年目	4,088	1,665			142					4,230	1,665	5,895
2031年	1年目		1,665								0	1,665	1,665
2032年	2年目		1,665								0	1,665	1,665
2033年	3年目		1,665								0	1,665	1,665
2034年	4年目		1,665								0	1,665	1,665
2035年	5年目		1,665	1,178			4,761	14,994			5,939	16,659	22,598
2036年	6年目		1,665					14,994			0	16,659	16,659
2037年	7年目		1,665					14,994			0	16,659	16,659
2038年	8年目		1,665					14,994			0	16,659	16,659
2039年	9年目		1,665					14,994			0	16,659	16,659
2040年	10年目		1,665		2,698			14,994	4,761	14,994	7,459	31,653	39,112
2041年	11年目		1,665					14,994		14,994	0	31,653	31,653
2042年	12年目		1,665					14,994		14,994	0	31,653	31,653
2043年	13年目		1,665					14,994		14,994	0	31,653	31,653
2044年	14年目		1,665					14,994		14,994	0	31,653	31,653
2045年	15年目		1,665					14,994		14,994	0	31,653	31,653
2046年	16年目		1,665					14,994		14,994	0	31,653	31,653
2047年	17年目		1,665					14,994		14,994	0	31,653	31,653
2048年	18年目		1,665					14,994		14,994	0	31,653	31,653
2049年	19年目		1,665					14,994		14,994	0	31,653	31,653
2050年	20年目		1,665					14,994		14,994	0	31,653	31,653
計		4,088	34,965	1,178	2,698	142	4,761	239,904	4,761	164,934	17,628	439,803	457,431

(2)雇用創出効果

雇用創出効果は、商業施設、産業施設について、1年間当たりの出荷額・売上を基に、1人当たりの金額を仮定して推計しました。商業ゾーンでは約180人、産業ゾーンでは約720人、合計で約900人の雇用創出効果が見込まれます。

なお、商業施設、産業施設の立地は段階的になることから、雇用創出効果も段階的となり、約900人という値は、すべてのゾーンにおいて施設立地が完了した際に実現します。

■雇用創出効果の試算

ゾーン	雇用者数
商業ゾーン	約180人
産業ゾーン	約720人
合計	約900人

第7章 屋代SIC周辺地区のまちづくりによる市内各拠点への波及と連携強化

Ⅰ 市内各拠点の機能強化

屋代SIC周辺地区のまちづくりにより創出される人の流れや交流・経済効果を市内各拠点へ波及することが期待されます。その効果を市内各拠点に広げていくため、屋代SIC周辺地区と相互に連携し、市内各拠点の機能や魅力の充実を図ります。

長野県立歴史館・森将軍塚古墳館を核とした歴史体験ゾーンの形成

- 企画展、講座、イベント等、魅力ある取組の実施
- イベントや情報発信等における屋代SIC周辺地区との連携
- 屋代SIC周辺地区と歴史体験ゾーンを連絡する安全な回遊空間の形成 など

「あんずの里」の観光振興

- 景観木保護のための支援
- あんずの木の増植及び生産農家の拡充
- 自然や農業体験機会の創出等による通年型観光振興の検討 など

中心拠点（屋代駅周辺）の活性化

- 商業機能、事務所、病院、福祉、公共施設、住居、情報発信などの多様な都市機能の集積を誘導
- 商店街などが取組む空き店舗の活用、買物の利便性向上及び販売促進事業などへ支援
- コワーキングスペース等の多様な人々が利用できる居場所の充実
- 地域プレイヤーとの連携による公共空間を活用した賑わいづくり
- 清泉大学との協働によるまちづくり など

重要伝統的建造物群保存地区を核とした「稲荷山」の観光振興

- 建造物修理事業等の促進
- 飲食店や土産物屋の出店などの調査・研究 など

八幡地区における地域防災拠点・道の駅の整備検討

- 民間活力導入可能性の検討 など

姨捨の棚田を核とした「さらしなの里」の観光振興

- 日本遺産「月の都 千曲」を構成する地域の景観保全の仕組みづくり
- 棚田を眺望できる「ビュースポット」の整備
- グランピングなど自然体験機能の導入 など

戸倉上山田温泉の長期滞在型ハブ観光拠点の形成

- 観光客がいつ来ても楽しめるイベントの開催
- 昼夜問わず安心してまち歩きができるまちづくり
- 情緒あふれる温泉街の整備 など

千曲市総合運動公園基本構想の推進

- 新戸倉体育館整備事業
- 千曲川を軸とした「かわまちづくり」の推進
- 白鳥園南側の未利用地整備 など

2 拠点を連携するネットワークの強化

各拠点の連携を通じて、市内全域で観光・交流の振興を図るため、連携を支える道路ネットワークや公共交通の充実など、移動環境の整備を図ります。

特に、市内の主要な産業集積地や観光拠点を連絡する都市計画道路一重山線は、屋代SIC周辺地区のまちづくりを市内全域へ波及させる上で整備促進が求められます。

産業活動の連携

- 市道一重山2号線（都市計画道路一重山線）整備
- 打沢～屋代間の一重山を越えるルート（都市計画道路一重山線）の早期事業化
- 市道打沢新道線整備 など

拠点間の連携

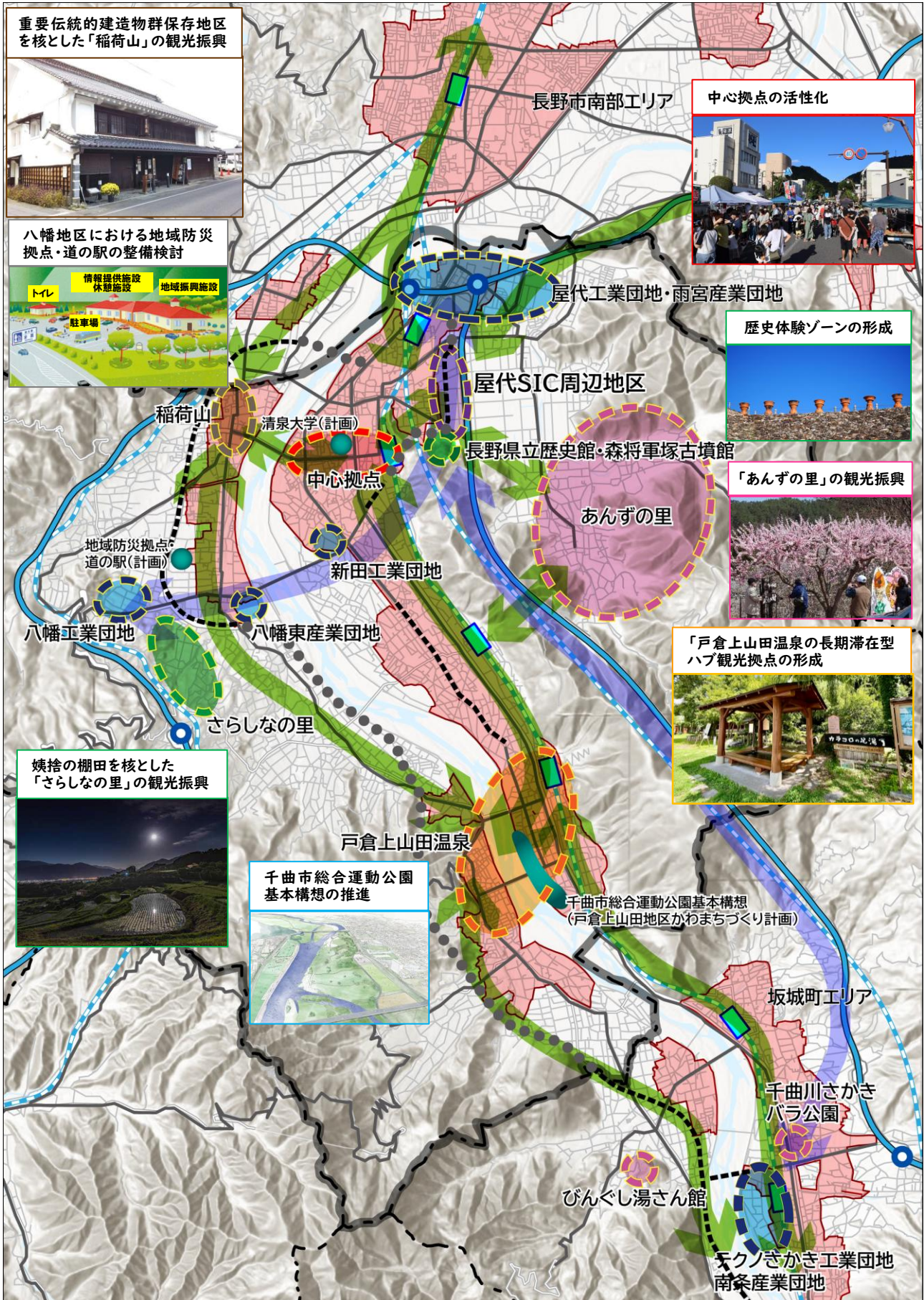
- 国道18号バイパスの整備促進
- 観光便（バス）の継続・拡充の検討
- シェアサイクルの拡充検討、駅のサイクリング拠点化、サイクルトレイン検討
- シェアカー等公共交通と自動車の連携
- 観光拠点のPRを各拠点が相互に行う仕組みづくり
- 屋代SIC周辺地区での市内観光拠点の情報発信
- 市内観光拠点での出店を考えている起業者等向けのチャレンジ店舗を屋代SIC周辺地区で提供 など

3 広域的な連携の強化

上信越自動車道と長野自動車道等の広域道路で結ばれた千曲市、長野市南部エリア、坂城町エリアを含む広域的なエリアには、魅力あふれる観光拠点や地域をけん引する産業・工業団地が点在することから、これらの連携を強化するための交通ネットワークの強化や仕組みづくりを進めます。

- 国道18号バイパスの整備促進など、千曲・坂城地域産業道路ネットワークの形成
- しなの鉄道やJR篠ノ井線の活性化支援
- 鉄道沿線自治体での連携による観光振興
- 千曲川沿いを主軸とした広域的なサイクリングネットワークの形成と川沿いの地域資源との連携
- 広域的な連携（イベント、自然学習・体験など）を通じた千曲川の自然環境保全と活用
- 各自治体の産業集積を生かした産業クラスター形成
- 産業立地や観光交流、移住、定住を通じた人の誘致に関する共同の取組 など

■屋代SIC周辺地区と各拠点との連携イメージ



第8章 まちづくりの推進体制

1 推進体制の考え方

屋代SIC周辺地区のまちづくりには、一定の期間を要するとともに、多様な主体が関わることから、相互に連携して将来像を実現するための推進体制を構築します。

(1) 庁内関係部署及び関係機関との連携による整備推進

- ・本計画の実現に向けては、都市計画や道路・公共施設の整備など複数の部署が連携して対応する必要があるため、庁内横断的な協議・調整を進めるとともに、関連計画等との整合を確保
- ・道路管理者（国、長野県、千曲市、NEXCO東日本）、運行管理者（国、長野県警察、交通事業者）など関係機関との連携により、各ゾーンの整備、誘導に関して調整、推進

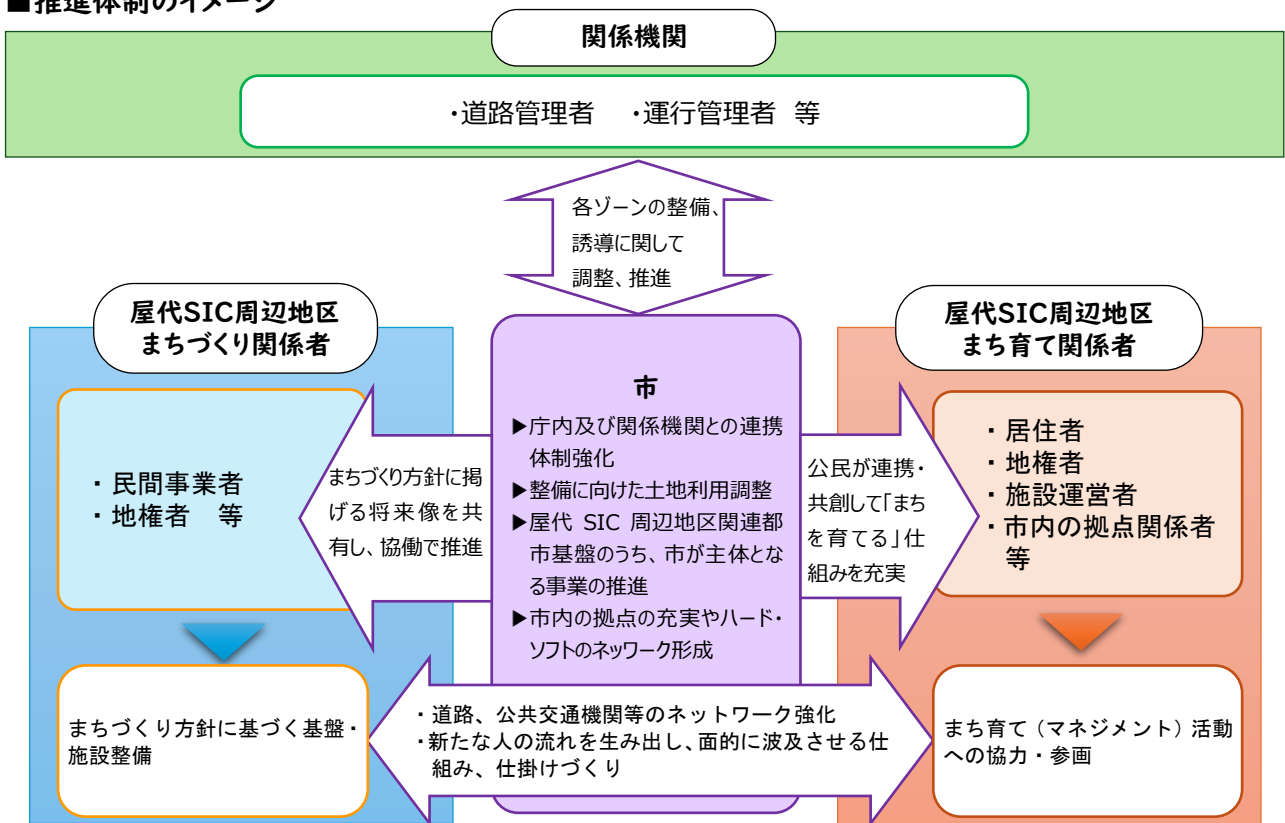
(2) 開発（まちづくり）を担う民間事業者との連携による魅力ある商業、産業、住宅の空間形成

- ・商業ゾーン、産業ゾーン、住宅ゾーンの基盤整備及び企業・居住者誘致に関しては、開発を担う民間事業者と「（仮称）屋代SICを活用した魅力あるまちづくり方針」（以下「まちづくり方針」）を共有し、まちづくり方針に掲げる将来像実現に向けて協働して事業を推進

(3) 市民、地域、企業、行政との連携・共創による「まち育て（マネジメント）」の仕組づくり

- ・賑わいの創出や景観形成などの取組は、個々のゾーンで単独で取り組むよりも、連携することで大きな効果を生み出すことができるため、公民が連携・共創して「まちを育てる」ための仕組みを充実
- ・屋代SIC周辺地区のまちづくりを市内全域へ波及させるため、市内の拠点が相互に情報発信したり、誘客面で連携したりする仕組みを検討

■推進体制のイメージ



2 多様な主体の役割分担によるまちづくり

屋代SIC周辺地区では、魅力的で快適な都市空間の形成を進めながら、地域の個性をいかした賑わいづくりと、市内各拠点との連携強化を深めていきます。これらの取り組みを通じて、地域全体の活力と交流を高める面的なまちづくりへと展開するとともに、まちづくりに関わる人（プレイヤー）の輪を広げていきます。

■屋代SIC周辺地区のまちづくりにおける役割分担のイメージ

		良好な都市空間の形成	地区の賑わい創出	市内拠点との連携
地区内	市	<ul style="list-style-type: none"> 道路等の公共空間の維持管理 公共文化ゾーン、交通拠点ゾーンの敷地内の管理、施設運営 等 	<ul style="list-style-type: none"> 公共空間を活用した賑わい創出の仕組づくり 公共施設における小店舗や飲食等の賑わい施設の導入 商業ゾーン、公共文化ゾーン、農業観光ゾーンの連携促進等 	<ul style="list-style-type: none"> 連携の基盤となる道路等交通基盤や公共交通機関の活性化支援 商工、観光施策を活用した市内の拠点の活性化 等
	施設運営者	<ul style="list-style-type: none"> 敷地内の緑化等による緑豊かな空間形成 施設建築にあたっての市の景観基準への適合 等 	<ul style="list-style-type: none"> 敷地内のオープンスペースを地域のイベント空間として活用提供 工場見学やアウトレットの販売 農業体験や園芸ワークショップなど土と触れ合う機会の提供等 	<ul style="list-style-type: none"> 農商工等の連携による地域産品の高付加価値化 部品供給など企業間連携による産業クラスターの形成等
	居住者	<ul style="list-style-type: none"> 敷地内の緑化等による緑豊かな住環境の形成 等 屋代SIC周辺地区での植樹や美化清掃のボランティア参加 等 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のイベントへの参画、コミュニティイベントの主催 等 プレイヤーとしてSIC周辺地区及び周辺施設での賑わい創出活動を企画運営、協力等 	<ul style="list-style-type: none"> 千曲市の魅力をSNS等で映像配信 千曲市の魅力を紹介、案内するボランティアガイド活動等
地区外	周辺施設管理者	<ul style="list-style-type: none"> 敷地内の緑化等による屋代SIC周辺地区と一体となった緑のネットワークの形成 等 	<ul style="list-style-type: none"> SIC周辺地区とのイベント連携や空間演出 SIC周辺地区でのアウトリーチ（出前展示） 等 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史等の共通テーマでのイベント連携 等
	市内の拠点関係者（商業・観光関係等）	<ul style="list-style-type: none"> 市内の拠点それぞれの特性や地域資源を生かした景観形成 等 	<ul style="list-style-type: none"> 観光客等の市内周遊を誘導するための相互の情報発信 等 	
	市民	<ul style="list-style-type: none"> 屋代SIC周辺地区での植樹や美化清掃のボランティア参加 等 	<ul style="list-style-type: none"> プレイヤーとしてSIC周辺地区及び周辺施設での賑わい創出活動を企画運営、協力等 地域のイベントへの参画、コミュニティイベントの主催 等 	<ul style="list-style-type: none"> 千曲市の魅力をSNS等で映像配信 千曲市の魅力を紹介、案内するボランティアガイド活動等